

愛媛大学教育学部

第117号

同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部総務係室内

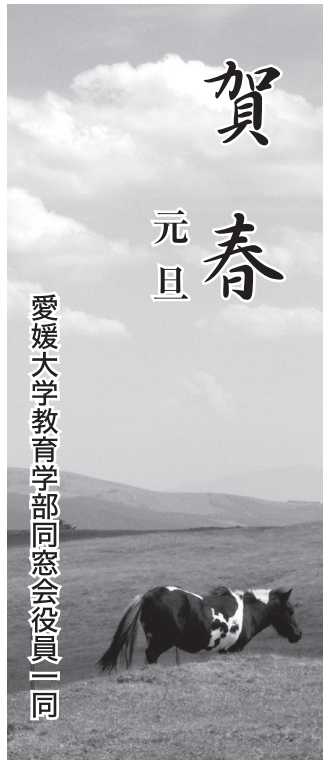
☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp

賀 春

元旦

愛媛大学教育学部同窓会役員二回



ご挨拶



愛媛大学
教育学部長
三浦 和尙

同窓会の皆様にはいつも温かく母校を見守っていただき、心より感謝申し上げます。

昨年八月には、教育学部同窓会の岡山支部総会に出席させていただきました。岡山の皆さんの熱い母校愛に触れることができました。卒業後にこのような思いを抱くことができるような教育学部であったことを誇りに思うと同時に、それを可能にする現在の教育学部であらねばならないと、改めて思いを強くしたことです。

さて、平成の時代も二十六年目を迎え、四半世紀を超えたことになりました。私が卒業したときには、ガリ版と鉄筆を持って学校に赴任した、と言っても、もう若い人には通じないでしょう。時代の

動きの速さに、改めて驚くことばかりです。と言いつつ、いまだに「ガラパゴス携帯」と言われながら、二つ折りの携帯電話を使っているのが私の生活です。今の時代からもう二十年生きたとしたら、私は「生きた化石」と言われることは間違いありません。そういった動きの速い時代にあって、教育もそのスピード感が求められています。学校現場では、ITやグローバル化への対応などが、これまで以上に求められています。大学も、「ミッシェンの再定義」と言って、それぞれの大学の学部の目的、わかりやすく言い換えれば存在理由を示せと責められ、愛媛大学教育学部は昨秋再定義が行われました。それによって、「実践型カリキュラムへの転換」「学校現場との連携の強化」などで、すでに本学部としては取り組んできたことに加え、「現場経験を有する教員の採用増」「教職大学院の設置」「総合人間形成課程など、教員養成課程以外の課程の将来的な廃止」などが、文部科学省の施

策として方向付けされました。これらの中には私たち大学現場の意志や感覚とは違和感のあるものも含まれていますが、国の施策というものの強さは言うまでもなく、これから数年、大きな変革が進められることになりそうです。ただ、こういう時代にあっても、私は教育の「大本」に変化はないものと考えています。人間の営みには必ず普遍のものがあると思っています。教育はまず「教師」です。教師が人間として少しでも高い所に成長していなければ、いい教育ができるはずがありません（私自身を顧みれば恥ずかしいばかりですが）。少なくとも、子どもの立場に立って、子どもの思いをくみ取る人間性がまず求められることは間違いのない所です。さらに言えば、私は最近、教科内容に関する力が落ちてきているのではないかと思うようになってきました。今日の学校現場での様々な状況に対応しようとすれば、人間関係力、コミュニケーション力、もう少し具体的には児童・生徒指導力、学級経営力などが求められることは理解しています。それらはいずれも大切なことです。私は国語教育を専門にしていますが、私が大学に入ったころからずっと、国語教育学研究は、国文学・漢文学や国語学からどう自立するのが問われてきました。簡単に言えば、例えば国文学の学習

ができていけば国語の授業ができるわけではなく、国語教育の知見があつて初めて、しっかりと国語の授業ができるということ。明らかにするのが、その時代の国語教育研究の仕事だったと言っても過言ではありません。今でも国語（教科）教育学の必要性は言うまでもないとは思っています。当時としては、国文学等の教科内容は自明のこととして身につけられていたのかもしれない。しかし現在、教科内容の弱さが、教員免許法の規定の改定に伴って目立ってきたように思います。その結果かどうか、その学習内容の本質的な面白さが子どもに伝えられにくくなっているのではないかと危惧するのです。教員自身が、勉強は楽しい——我慢して机についているという意味の勉強ではなく、この領域の内容はこんな面白いんだという感覚——と思っていないければ、子どもはその領域の勉強をおもしろいとは思わないでしょう。教員自身がおもしろいと思う、その感覚・確信は、教育にとっては変わらず大切なことだと思ふのです。人間の成長と教えることについての深い造詣。教員養成機関としてそれらをどのように保証していくかは、まず、我々教育学部教員が問われることになりました。その対応への努力によって、卒業生からも思い出深く振り返ってもらえる学部たりうるのでしょうか。

目次

表紙	鳥谷ひかる
「夜光」	菊川 國夫
「ご挨拶」	三浦 和尙
「教育指導のあり方から幼稚園での園児から学んだ」	菅田 顕
「吉村直道先生今日日は」	濱田 純子
「魅力的な大人のマナー講座」(四)	東・中・南予で開催しました
「科学的イノベーション挑戦講座」	東・中・南予で開催しました
「人類の役に立つ事業の合成に挑戦する」を開催しました	東・中・南予で開催しました
「夢の始まり」	東温市・北吉井小教諭 松澤 愛
「初心を忘れず」	西予市・宇和町小教諭 武田 美和
「教師修行果てしなく」	愛南町・久良小教諭 井上 武
「これまでを振り返って」	喜多郡・内子小教諭 大田原秀樹
「これまでとこれから」	西条市・西条北中教諭 柳瀬 宏紀
「夢への第一歩を踏み出すために」	松山市・北条北中教諭 西岡 香恵
「つながり」を活動テーマとした	久米わくわくチャレンジサタデー
教育学専修・四回生	大石 侑佳

教育指導のあり方を

幼稚園での園児から学んだ

菅田 顕

(昭三四卒)

「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」(Robert Fulghum 著)を読んで心に響くものがあった。

以前、私は、教頭職まで、中学校教員として勤め、久万高原町のN小学校へ学校長・兼務園長として赴任した。

そこでの教員としての経験、特に幼稚園での体験は指導者としてのあり方を見、そして聴く鏡となっていた。

【そのお話は誰に向かって話しているの】

私にとって園長として最初の入園式。初めての幼稚園の式辞ということもあり、出席されている方に少しでも感銘をもって聞いていただけるようにと、気合いを入れて作成した。

中学校教員時代、全校集会等で壇上で話す機会は幾度もあり、生徒達は私の話をよく聞いてくれていた。二、三人の園児が私の前を

走っているのではないか。それをお母様達が追っかけているのではないか。私は愕然とした。園児、それも入園児に最初の洗礼を受けた。

「そこから、私は教わった。ここに立つて難しい話をしていられるおさん、誰に向かって何をなしているんだ。私らはみんなと一緒に嬉しいうちでここに座っているのよ。」と。「おさん、そこに座っているおさんおばさん達に格好とって話しているんじゃないのかな。」と。

その日以来、時間が許す限り幼稚園に行き、幼児の心をいかにして掴むかの学習をしていった。



【私たちの心の高さになることができるの】

ある日のことだった。紙飛行機に興味のある私。園児達にもできる「折り紙飛行機」の作り方を教えようと、勇んで幼稚園に行き、園児を集め、折り紙で飛行機を作り飛ばした。

予想通り、園児達は嬉しそうにわーっと紙飛行機を追っかけた。

その時だった。一人の園児が、「それなら僕も出来るよ。」と。そこで、「どんな飛行機か折ってみて。」と言うと、園児は、先の尖ったペンシル型にさつと折り、さつと飛ばした。そのペンシル型飛行機はす早く遠くへと飛んでいった。そして、園児達はわーっと一斉にそちらに駆け寄っていった。そこで、園児達は私も我もと「ロケットじゃー！」と、自分なりに納得したロケット型紙飛行機を作り飛ばし始めた。そして、私は独りぼつんとその場に立っていた。

そして教わった。「子どもの視線に立つ」とは。「子どもの心に入る」とは。

それ以来、常に「園児のニーズは何か」「園児の思い、願い、欲求は何か」との課題意識を持って園児達の中に入り込んだ。

【園長先生はおいさんです】
新学期早々に親子遠足があった。お昼のお弁当は当時の梅津寺遊園地で食べた。

食事後、子どもたち親御さん達が楽しそうに、遊園地を駆け回っていた。あちらこちらで遊戯が始まっていた。

私は、園児達の元気な声を背中で聞きながら、柵にもたれて、のんびりとうららかな瀬戸の海を眺めていた。

ふと気がつくと、私のズボンにくっくっ引つ張っているではないか。おや？と、振り返って見る

とそこには、二人の園児がいた。園児が「おいさん、おいさん、何をしようぞな。」と。

「いやいや、お母さん、いいですよ。いいんですよ。」「二人どしたん。」と。すると、園児は「おいさん一緒に遊ぼうや。」と叫んでくれた。

それは、「私ら皆楽しく遊んでいるのに、あそこに、独り寂しくぼつんとして海を眺めているおさんがある。かわいそうじゃけん遊びに入れてあげようや。」と、私の所に来てくれたのだった。

そうなんだ。園児にとって「園長先生」と言うのは「おいさん」の別の呼び名なのだ。

子どもたちと接するときは、一人の人として接しなければならぬ。「教育は人なり」と言われるが、まさしくこの場面にもあることに思い知らされた。

教育の場にあつては、常に人間として在るべき姿を求め、己が日々研修、鍛錬、精進する過程にある中で、子どもと自然体で接してこそ初めて子どもを真に教育することが出来るのだ。

幸せにも、私は、幼稚園の園児から多くの事を学ばせて頂いた。

第四回 愛媛大学ホームカミング

文芸	川柳	日野 厚生	(21)
	俳句「癸巳年の句より」	平野 青流	
	短歌「永遠の平和を」	森貞 和雄	
	水墨画「豊かな時間」	渡部 平人	(23)
	学部トピックス		
	・教育学部の安積京子講師がドイツでピアノコンサートに招待され、出演しました		
	・第十八回愛媛大学教職員作品展が開催されました		
	「教育学部女性スタッフ陣制作「自由奔放流 七宝焼き」も出展」		(25)
	先輩を偲ぶ		
	林傳次先生遺稿集「把翠」を編く(八)		(26)
	支部だより		
	岡山支部 第二回総会開かる	岡田 潤	
	伊予支部「笑いは良薬 笑いで慶祝」	山田智香子	(28)
	同期会		
	第三十回同期会 二九の会報告	小野植元幸	
	親子読書会の四十年		
	「昭王会関東支部の集いから」伊藤		
	会員の声		
	「村上護氏への追悼」	伊井 春樹	(30)
	「足跡」	曾我 定一	(32)
	今、教育に思うこと		
	「戦時中の国語教育」読み方・綴り方・書き方」	小野植元幸	(32)
	表紙作品「夜光」について 鳥谷ひかる		(33)
	叙勲・受賞		
	寄贈図書		
	「ふるさと北条」わたしたちにつながる先人」	北条地区校長会	(33)
	「震災二年目の三陸被災地を見る旅」	西川	
	「教師 幸田光温 七十八年のあしあと」		
	同窓会への寄付者・会報送料送金者名目	幸田美枝子	(33)
	敬 申		
	原稿募集		
	放送大学前期入学生募集		(29)(34)
	第四回 愛媛大学ホームカミング		(35)
	デイが開催されました		



研究室訪問

数学教育学研究室

吉村直道先生 今日

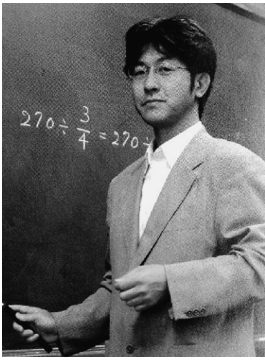
1 2 3

厳しい残暑が続いている九月の上旬、内外の公務で多忙を極める吉村先生に、無理をお願いして、研究室訪問をさせて頂いた。

「愛媛の算数数学教育に接して感じたことは、

良い意味ではありますが、「十位前の数学教育かな」ということを、初めて愛媛教育に接して感じました。

それは、古き良き時代の教育が



今も現存しているという感慨深い思いです。

愛媛はまだ、授業において先生が所謂インシヤティブを取っており、立場も高く、子どもは勉強しなければならぬ、授業は静かに集中して聞かなければならないという雰囲気の中で、学習が進みます。そういう意味で、まだ古き良き算数数学教室の実態があるなという思いです。

少し気にかかるのは、授業が少し堅い感じがし、授業の中に柔軟性がないと感じることです。算数数学の授業の中に、糊代といつか、もう少しゆとりがあればいいなと思います。

子どもには、授業の中で本質的

な問いかけをし、その点を気づかせながら学ばせていきたいものだと思います。形式的で表面的な学習ではなくて、先生という立場の数学の熟達者／生活や学習の先輩として「真剣に語り合う」ということが必要だと思います。授業を機会に、新たな学習が始まる／議論が始まる、そんな風に、授業が学習の出発点にならないといけないと思います。

最近、授業で学習が完結してしまっているように思われることが少なくありません。授業が分かりやすいというか、授業が終わって先生を取り囲む姿を余り見ません。授業中をはじめ授業後も生徒から質問が生まれません。その授業で、子どもが動かない、動き出さずに終わってしまっています。

愛媛の先生は子ども達のために授業中凄く頑張っている感じがします。場合によっては、先生が頑張りすぎますと、子ども達は自分の脳を余り使わないで学習することが出来ます。授業で頑張っているのは先生で、子どもはその手に乗って余り頭を働かすことな

く、効率よく何をすれば○がもらえるかということ学習しているような感じを受けます。

先生は授業の前に知恵を使って頑張り、授業中頑張るのは子ども達。子どもが授業中、頭から湯気が出るほどに考え頑張る。その分先生は余裕が出来、見守ることが出来るのだと思います。

先生が自分の理解を咀嚼して子どもにそれを教示し、自分の理解のテリトリーで子どもを動かしている。子どもが落ちて置いて座っていないなかつたり、自分の言うことを聞かなかつたりするのは、その先生にとって大問題です。だから言うことを聞かせるようにしながら、そのテリトリーの中で授業を行く。場合によっては、それが安定感のある上手いっている授業に見え、それが授業力のある教員だと錯覚されます。

しかし、子どもが自由に動き出し発想し始めると手に負えなくなってくる。本当はそこを頑張らなくてはいけないのですが、今はその力が弱いですね。

教材研究を通して、子どもの可

能性をどれだけ信じ、何をどれだけ伸ばすか、これが大事なのに、どちらかと言うと子どもの可能性を制限しながら先生の解釈の中で理路整然と子どもを伸ばそうとしています。先生の理解の中で子どもを育てる方が、スムーズにいくし余りエネルギーを使わずやりやすい。子どももこの様な先生の方が分かりやすいというから、ここが難しいです。

本当に良い学習はどちらなのでしょう？学習は完全に放任ではないけれども、子どもが悩み苦しんで考えて算数数学を創り出していくときに、先生がどのようにそこに付き合うかが重要だと思います。

知的な活動の中の自由さ、先生も子どもも総ての人達が自由平等に多面的・多角的に考えられる知的環境が保証される自由さ、ここがもう少しあってもいいのかなと思います。これへの抵抗は大きいですね。難しいです。

地域連携について

講演に招聘されたり、校内研究

「愛媛大学教育学部サポーター制度」より

「魅力的な大人のマナー講座」(四)

浜田 純子氏講演より

皆さん今日は、浜田純子と申します。本日はよろしくお願ひ致します。



私はサポーターとして今回で四回目になります。

私にとりまして、後輩の皆様にも本日お目にかかったご縁を大変嬉しく思っています。これからの一時間半、皆さんと一緒にリラックスして「魅力的なマナー」とはどのようなことなのか、様々な事例を挙げながら一緒に考える時間にならうと思っております。

「魅力的な人」とは？イメージしてみよう

まず最初に、皆さん目を閉じてみて下さい。目を閉じて自分が考える「魅力的な大人」をイメージしてみてください。どんな人が浮かんできますか。

「男性でしょうか。女性でしょうか」「どんな表情をしていますか」「何をしていますか」「どのようなところを魅力的」に感じますか。

はい、目を開いて下さい。本日も皆様に、私からどんどんご指名をさせて頂きたいのですがよろしいでしょうか。では、早速どういう人が「思い浮かんだ魅力的な人」なのか、教えて頂けますか。

男子学生「はい、私は私の父親を思い浮かべます。父親が何時もゆったりと構えて笑顔でいる姿を思い浮かべました。」

女子学生「誰という人とかは思いませんのですが、何時も笑顔で、そして何時もキリッとしている人を思い浮かべました。」
男子学生「私も男性ですが、そ

れは自分の言動に対して信念を持っており、人に対していろいろな気配りが行き届く人だと思えます。」

女子学生「私は女性の姿を思い浮かべました。その人は、背筋をピンと伸ばして、すっと立っている人で、言動がはっきりとしている人です。」

はい、皆さんありがとうございます。皆さんそれぞれに素敵なお話を伺っていました。皆さんそれぞれに素敵なお話を伺っていました。

私は、皆さんのお話を伺っていて、必ずしも美人だとか格好いいといった言葉が出てこなかったなあと感じました。「魅力的な人」というのは、例えば丁寧な接し方をするとか、綺麗な格好をするとか、そういう人を言うのではないということに気づいていらっしゃるのだと感じます。



「本当の暖かさを感じる言葉つかいは」

それでは、早速本題に入ります。本日は、数々の事例を準備して参りました。事例に基づいて登場人物の言動について、一緒に考えてみたいと思います。

皆さん、資料の1ページを開いて下さい。

このシチュエーションを説明致します。「ここは居酒屋さんです。居酒屋にお客さんとして男女二人の方がいらつしゃっています。楽しい会話をしながら美味しいものを沢山食べているのですが、突然その人達が「寒いなあ」と言い出しました。寒いと感じると、話しているも気になるし、食べていても、心から味わえない……」そんな状況です。そこで、その二人はスタッフを呼びました。その部屋に来たスタッフに「部屋が寒い」と伝えました。資料【1】には、

そんなやり取りを載せています。では、実際に演技をしてみました。先程発表して下さい。男性と女性の学生さんお二人、お客さん役になって頂いていいですか。そして、隣の女性の方はスタッフ役になって頂いていいですか。では、なりきってお願い致します。

「お客さんになりきった学生さんお二人とスタッフになった女

性学生さんが台詞を交わす。ありがとうございます。

では、その後ろの列の方、今のやり取りを聞いて、何か気になったことがありましたか。

女子学生「スタッフが最初に言った『仕方がない』という言葉は何気ない言葉として、出てきたのかも知れませんが、気になりました。」

「仕方がない」これ注視すべき言葉ですね。お隣の方、他に何かありませんでしたか。

女子学生「私も同じで、スタッフの言葉が気になりました。」このスタッフの方は丁寧に対応をされていて、言葉も綺麗ですが、何となく言い訳がましく、

「寒い」と言ったことに対してきちんと応えていない感じが感じられます。

では、二ページの【2】をご覧ください。これについて、お二人の女性の方にそれぞれの役をさせていただきます。お一人がお客さんに、お一人が女性のスタッフになって下さい。

よろしいですか。どうぞ！
「客とスタッフとの会話をする」

はい、どうもありがとうございます。後ろの方、感想をお願いします。

女子学生「スタッフが始めに丁寧におわびをして、その後お客様のことを考えて、別の部屋を準備するとか、毛布を持ってきましてとか、いろいろ気配りをしています。また、後から寒いかどうかを聞きに來たりして、細かい気遣いを忘れないことはよかったです。」

講師「お隣の席の方、先程の1番と2番の何が違うのでしょうか」
女子学生「謝罪の仕方とそれに伴う行動が違います。」

講師「お隣の方、何故このように行動が違ったのでしょうか。」
女子学生「お客様のことを色々考えた、考え方の違いだと思います。」

今、発表して下さったように、2番のスタッフの方は、始めに「申し訳ありません」と謝った後、万全の綺麗な言葉ではないかもしませんが、お客様の立場に立ち、お客様の気持ち、意を汲んで、自分ができる限りのことをしています。

最初に「寒い」と言われた時に、(1) 番のスタッフの方は「それはしょうがないでしょう。ここは風の出でくる下の所ですから。」と言いました。一方(2) 番のスタッフの方は、お店側の立場として「寒いという思いをさせた事」に関して、「それは大変不愉快な思いをさせてしまった。申

し訳ございません。」という謝罪の言葉を直ぐに出してきました。そして、直ぐに他の席を調べてきて、「あちらの席が空きましたので、よろしかったら、あちらにいらつしゃいませんか。」と、新しい提案を上げています。そして、お客様に「いいです。」断られたら、「では、その代わりにこの毛布を使つて下さい。」と言つた。ここまでの対応で、お客様も「このスタッフは本当に優しいのだなあ、よくしてくれるのだなあ」と、おそらく感じたと思えます。



それに加えて、十分ぐらいた後、(このスタッフだつて忙しいはずですよ、他にも仕事があるはず)でも、お客様のことをきちんと気にかけていて、「その後大丈夫ですか、寒くないですか。温かくなりましたか。」と、声掛けをしている。ここが大変素

晴らしいと思えます。この声かけによつて、このスタッフの心遣いはこの上ない親切心としてお客様に伝わつたはず。お客様からグッドコメントを貰えるのではないかと私は思います。

この事例から何を申し上げたいかと言うと、丁寧で綺麗な言葉遣いをしたから、相手が満足するかなと言え、そうではありません。それは、何故かと言うと、マナーを伝える相手は「人」だからです。

このマナーに関しては、「綺麗な言葉、敬語を100%使いました」、「丁寧な言葉、表情でにこやかに100%対応しました」、それをしたら100点かというところではありません。それを行ったかどうかではなく、それをすることによつて目の前の相手がどのような気持ちになつたか、つまり心地よい気持ちになつてもらえたか、それが大切な目的なのです。

その目的を達成するためのマナーなのです。二ページの中程にマナーを土台としたハート型の図を載せていますが、本当のマナーを伝えるのは、その人の気持ち、心遣い、人間力かもしれません。心遣いを「マナー」という形を使つて相手に伝えてこそ、初めて相手の心に届くのです。

本当の意味での「マナー」とは、知識として知っているだけではなく、またルールとして知っている

だけでもない、(2) 番に登場したスタッフのように、心より相手のため対応することです。これが、現実なんだと言うことを是非皆さんに知つて頂いた上で、知識としてのマナーを身に付けていつて頂きたいと願っています。

では、三ページをご覧ください。

「魅力的な大人ならどうする?」の〇×クイズです。「魅力的な大人としてどう行動を取るべきか」について、五つの設問を書いていきます。これは、社会人一年生の新入社員に対して作つたものです。皆さんは、今、会社勤めではないのですが、会社員として入社したと想定して、一緒に考えてみて下さい。

こんなとき、「どういう行動をどう取るべきでしょうか」「貴方だつたらどうしますか」「理想的な大人だつたらどうしますか」

先ず①番です。

これいかがでしょう。

女子学生応答する、

ありがとうございます。おっしゃる通りだと思います。今おっしゃつて下さつたように、こういう公共の場所で、いつまでも自分だけのお喋りに時間を費やしていると、他の人にも随分迷惑をかけることになります。見た目も良く

ありません。それと同時にもう一

つ、喋っている内容がその場にいますべての人に聞かれてしまうことになります。何を喋っているか、その内容は書いてはいませんが、会社やプライベートの色々な情報も他へ漏れてしまうという危険性もあるのです。ですから、この様なことは避けなければいけません。

次に、②に行きましよう。

次の方ががでしょうか。

男子学生応答する、
そうですね、今、二つのことを言つて下さいました。「もっと早く家を出るべき。言い訳をしなさい。」ということですね。

ではお隣の方、貴方ならその時、上司に対して、どんなふうにおつしゃいますか。自分なりの言葉で、綺麗な言葉を使わなくていいですから。お願いいたします。

女子学生応答する、

そうですね。「車両が故障して、遅れてしまうと思つた段階に於いて、遅れそうになるという連絡を会社へ入れておく」ということですね。素晴らしいと思います。

では、お隣の方、連絡を入れませんでした。そして、結局五分遅れてしまいました。そして、上司の所へ行きました。そこで、何とおつしゃいますか。

女子学生「五分遅れてしまいました。」

では、その次に何をおっしゃいますか。

～女子学生答える～

そうですね。「申し訳ありません。」と、一言言うべきです。本人が悪いわけではないのですが、やはり、謝った方がいいです。皆さんは早くも魅力的な大人になっていきますね。今、皆さんがおっしゃった通りです。

やはり、自分のせいではなくても、遅れたというので、会社の人達には迷惑を掛けていることになりません。ですから、自分のせいではなくても、先ず、「申し訳ありませんでした。」と謝ってから、理由を述べる。そういう言い方なら言い訳にはならないと思います。それで、先程の方がおっしゃったように「これからは、こういう事態に備えて、もう少し早く家を出ます。本当に申し訳ありませんでした。」と付け加えてもいいですね。

次に③にいきましょう。このことについてはどうでしょう。

～男子学生答える～

メールだけでは確実に届くかどうか分からない点ですね。では、後ろの男性の方でしょうか。男子学生「メールではなく肉声でしたら、電話でどのように伝えられますか。」

では、お隣の方に上司になって頂いて、電話をかけてみましょう。「つるー、つるー」電話のやり取りをする。

この様な場面は、皆さん大変お上手なですね。はい、素晴らしい電話の対応が出来ていました。もし、五時頃、ぎりぎりに電話をしていたら、代わりの人は見つからなかったと思います。お店に迷惑をかけたかということ、連絡をするのを五時まで待つのはなく、ある程度の所で、出来るだけ早く電話連絡をすることが必要ですね。

それから、メールだったら一方的に伝わってきけません。この事例でも言い方が一方的ですよね。しかし、電話だったら、今言っておきながら、「休ませて下さいませか」というように、許可を得ることが出来ます。勝手にメールで「今日は休みます」との連絡はどうかと思います。やはり、このような時には、きちんと電話をして、先ずお詫びをする。このことが大事です。

次に④の事例ですが、これについてはいかがですか。

～女子学生答える～

「席を離れてから、携帯を確認し、後から連絡をしますから」と電話をするんですね。隣の方はいかがですか。女子学生答える。

なるほど、「一寸失礼します」と言って、携帯を見て、「たいしたことではない」と判断したんですね。では、「パツと見た瞬間、それはバイト先からの連絡だったらどうしたら良いでしょうか。」私が先輩だとして考えてみて下さい。「座って食事をしています。どうやって席を離れますか。」

～女子学生答える～
そうですね。「アルバイト先から緊急の連絡が入ったので、ちよつと失礼してよろしいですか。」と言って離れる。

皆さん、自信をもって伝える。その一言が大事なのです。「失礼します」と言って離れ、席に戻った時に、「失礼しました」と言う。離れるときに、「ちよつと失礼します。緊急の用なので」この一言があるかないかで相手に与える印象が異なってきます。そつと立っていくと「なんだろう？」と思われれますね。

次に、⑤にいけます。お隣の方がいかがですか。
～女子学生答える～
「個人情報のことなので『Aさんに尋ねてから連絡します』と伝える。」お隣の方がいかがですか。
～女子学生答える～
Aさんに連絡してから教えるという方法ですが、自分が直接教えるのではなく、「携帯番号を教え

てほしいという電話があったので、直接電話してくださいませか。」というのが一番いいかなとも思います。他の人の電話番号を自分の口から言うのも考えものですね。

皆さん問題なく魅力的な判断を下さいました。ここに書かれているのは、ここでこうしなければならぬというルール等ではありません。こうしなくてはならないと皆さん感じられているかも知れませんが、そうではなくて、今一緒に考えてきたように、その時々で、その場の状況を考えて、どうするべきか判断することが大切です。

この様に、その時々でどうするべきか、相手の方の立場や気持ちを考えて、自分が状況に応じて、判断して行動していくこと……。これが、本当の意味の大人のマナーということになります。

【基本的なマナーの確認】

では、次に「基本的なマナー」について、確認していきたいと思えます。

昨年、一昨年と私の講座を聴いてくださった方いらっしゃいますか。はい。沢山いらっしゃいますね。ありがとうございます。

これからのマナーの確認は、少しかぶるものがあるかも知れませんが、過去に受けて下さった方は

是非、率先して、皆さんにお手本を見せて頂きたいと思えます。

先ず、第一印象です。どんなに中身が素晴らしいとしても、どんなにお話が上手でも、「見た目」、それが大変重要になります。人の印象は、見た目と聞いた感じで、その殆どが決まるという風に言われております。ですから、その第一印象を自分がつくる時には、他の人から見て、自分がどのような印象をもってもらいたいのか、それを考えて、身だしなみや、その他諸々を整えていく必要があります。

ところで、みなさんよろしいですか。「貴方が今日就活で面接に行きます。その時、どんな印象をもってもらいたいと思えますか」

～男子学生答える～

「真面目で積極的な印象をもってもらおうようにする」「清潔感があつて、活き活きとして明るい印象をもってもらおう」そんな風に見える努力をするということですね。

では、今度は「教育実習初日です。どういう印象を持ってもらいたいと思えますか」後ろの方はどうですか。

～学生回答～

なるほどそうですね。「明るくてはきはき、そして、積極性がある」という印象をもってもらいたいんですね。」

はい、ではお隣の方、「今日はバイトがあります。今からバイト先に行きます。どのような印象をもってもらいたいですか。」

（隣の学生答える）

そうですね。「もう一度来たいなど思わせるようにしたい。清潔感を持ってもらえるようにしたい」。では、そのためにはどんな努力をしますか。はい、ありがとうございます。笑顔と言葉遣いに気をつける」のですね。

次に「今日は合コンです。相手にどのような印象をもってもらいたいですか」もうお一人答えて下さい。なるほど「可愛らしく、親しみやすく明るい」お洋服はどのようなにしますか。「可愛らしい様な服装にします」お隣の方はいかがですか。「明るい感じ、笑顔を絶やさない」

では、今度は男性の方にお聞きしてもいいですか。

「今日合コンです。どんな印象を持ってもらいたいのと思って、どのように身だしなみを整えますか」「見た目より、トータル感で言いますと、清潔感があり可もなく不可もない標準で」

（会場笑い）

「他に、雰囲気、表情、髪型総て」そうですね。「面白い人としてがいいと思います。」

はい。ありがとうございます。今ののように、行き先によって、ど

う印象をもってもらいたいかが違うと思います。つまり、身だしなみ一つをとっても、「こういう印象を持ってもらいたい」ということを考えて、それに則って決めて頂きたいと思います。

ところが、どうしても私たちにはお洒落をしたいという気持ちがありますね。そうすると、何処へ行くにも「お洒落」と言うことが頭の隅に引つかかかってしまいがちです。でも「お洒落」は、自分のためにするもの、自己本位でするもの。でも「身だしなみ」はそうではなくて、目の前の相手のためにするものなのです。ですので、今日の格好は自分にとってはちょっとグサいかと思っても、TPOを考えるとこれがいんだという判断力が必要になってくるのです。

次の資料、「清潔感チェックリスト」ですが、実は清潔感というのは、大変大切です。先程の皆さんの言葉からも出てきていました。皆さん、ほんの一、二分ですけれど、ここに挙げてある十七項目をサーッとチェックしてみてください。はい、いかがでしたか。何か気になる項目がありましたか。その女性の方、ありましたか。はい、「お辞儀をする時、髪が前に垂れる」ということですね。そうですね、女性としては、

俯いた時に、髪がサラッと流れてくるのは素敵ですよ。しかし、これがもし先程取り上げたような教育実習に行った時、就活に行った時、バイト先に行った時には、このことにより印象が悪くなります。髪を掻き上げたり、顔や髪をよく触るといふ行為は、意外にも清潔感としてはマイナスイメージを与えるからです。触らないようにしようと思っても、癖がでてつい触ってしまうことは多いと思います。デートの時は別ですけどね。

はい、ありがとうございます。皆さんそれぞれ思い当たる点があったと思いますが、清潔感はどういう場面でも大切ですので、何かの機会には、この「チェックリスト」を使って頂ければと思います。

【あいさつで変わる第一印象】

では皆さん、次ぎに「挨拶」の練習をしてみたいと思います。

「たかが挨拶、されど挨拶」。挨拶一つで、印象が大きく変わってきます。挨拶を自分からするかどうかで、実は相手方とのコミュニケーションが大きく変わってきます。

実際に新入社員研修で、挨拶の練習をした後に、「明日までに十人の人に自分から積極的に挨拶をしてきてください。」という課題を出したことがあります。なかなか

かできなかったようですが、一生懸命努力したある人から、「こちらから挨拶すると、相手から会釈を返してくれたり、挨拶を返してくれたらした。こちらから挨拶することで、その後のコミュニケーションに繋がった」など、いろいろな言葉を沢山頂きました。実際に挨拶にはこのような効果があるのです。「挨拶」はしっかりと今から身につけておいてほしいと思います。

では、皆さんお立ちください。まず、立つたらすぐにスーツと背筋を伸ばし、踵を合わせましょう。そして、爪先は少し開きます。男性は少し多めに開いてください。男性は手は横に軽く伸ばします。女性は前で手を組みます。手は左を上にして合わせ、おへそより少し上に手を持っていきます。何よ



り背筋がピンと伸びているのが綺麗ですね。

はい、それで挨拶をしたいと思えます。

- 一で パタッと倒して
- 二で ピタッと止めて
- 三、四でゆっくり上げる

では、私が「お早うございます。」と申し上げますので、皆様も「お早うございます」と言ったら後、一、二、三、四で挨拶をしてみしましょう。はい、行きますよ。

「お早うございます。」学生「お早うございます。」はい、元気な挨拶が出来ました。では、もう一回「お早うございます」を致しましょう。もつと早く倒すようにしてください。こんなに早く倒してもいいのと思われる程、驚くほどに早く倒してみてください。そして、ピタット止めるのです。そうです。そんな感じです。

では、行きますよ。「お早うございます。」「お早うございます。」そうですね。大分良くなりました。でも、もつと早く倒してピタッと止めてみましょう。「今日は」「今日は」はい！綺麗になりました！では、本日は向かい合って挨拶をするのではなくて、前に出てきていたいただいて、すれ違うときに、今の挨拶をして頂きたいと思えます。よろしいでしょうか。

はい、出てきていいよと思われる

る方、十人ぐらい出てきて欲しいのですが。

はい、ありがとうございます。何をするかというと、このように

に歩いていると、前から知り合いの人が来ました。この人に対して、挨拶をします。それでは、私が先ず歩いて行きますので、挨拶をしてみてください。女子学生「お早うございます。」はい、これですね。このように、「お早うございます。」と、顔を見て言って、そして、一、二、三、四で、挨拶をしてください。深い挨拶でなくて、会釈程度でいいですから。

一、二、三、四で、挨拶。そして、相手の方にニッコリと微笑みかけて下さい。はい、このようにします。では、向こうの人がこの様な挨拶をします。こちらの人は、すれ違う人です。ちよつとやってみましょうか。

二人出て、「お早うございま



す」「お早うございます」と、十組が試行する。会場和む。

はい、皆さんは笑顔がとても素敵です。そして、はきはきと元気な挨拶をしてくださいなね。

ここでこのような挨拶の練習をしても、皆さんが実際に挨拶するのは、このような場面だとは限りませんよ。どこかでばったり出会う場面が多いと思います。そんなときでも、今のように、自分から笑顔で「お早うございます」と、声を掛けてお辞儀をしてみてください。これが、最も大事な点です。また、大きい声ですると、相手の方も挨拶を返さなければと思ってしまうので、自信を持ってやって頂きたいと思えます。

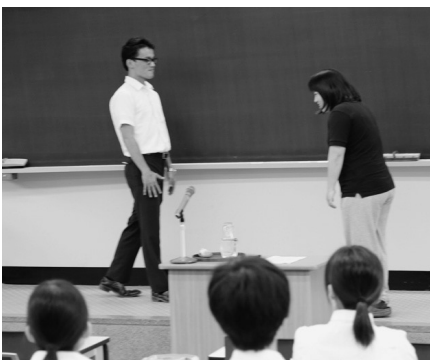
このように、挨拶ひとつからでも積極性や明るさが印象として伝



わりますので、自分のものにして頂きたいと思えます。

【目は口ほどにものを言う！】

次に、「表情」と「感情」です。これは何かと申しますと、私たちの印象で一番厄介なのは「表情」なのです。「笑顔でいこう」と決めている時は問題ないのですが、私たちは無意識のうちに、自分が何か感じた時、それが表情になって顔に表れます。皆さんの中で、接客をするバイトをされている方はいらっしゃいますか。お客様を接客するときに、例えば、相手から自分が予期せぬ事を言われた時に表情が問題になるので、事例として、一つご紹介いたします。「私が、クリーニング屋さんに行った時の話です。日曜日です。私は、沢山クリーニングを出していたので、それを受け取るために端の方で待っていたのです。その時、一人の男性が洗濯物



を脇に抱えてスーツと入ってきた。女性の店員さんは「いらっしやいませ」と言っていて、丁寧に迎えました。その男性は「今日はスーツは半額でしたよね」と言うと、それを聞いた途端、店員さんは「はあ？」と、先程の「いらっしやいませ」と言った時の表情はどこへいったのか、表情がコロッと変わりました。その時男性は、ポケットから、クシヤクシヤになった紙を出しました。おそろく、割引き券か何かだったと思います。それを見た店員さんは「ああこれですね。」と、鬱陶しそうに應對をしていました。男性は別にクレームはつけなかったのですが、おそらく余り良い気持ちではなかったのではと思いました。

この事例は、極端かも知れませんが、通常は「いらっしやいませ」と、普段通りのニコニコした対応ができるのですが、そこで、自分の予期せぬ言葉を聞いた瞬間に変わってしまうことは少なくありません。この事例では、「半額ですよね」と言われた瞬間に、「はあ!？」という言葉とともに「何言っているの？半額なわけないでしょ」とでもいいいたいような表情になったのです。こんな風に、自分のふとした感情が無意識の内に出てしまう。これは、やはり、気をつけなければいけないことなのです。

【気をつけたい言葉の使い方】

では、次にですね、「言葉の使い方」です。今年によくある会話を挙げてみます。

一番のAさんの役を皆さんにお願いします。私はお客様です。

では、始めます。

どうですか。今のやりとり、何か気になることはありませんか。そうですね。実はこのたった一行ですが、使っていない言葉があります。「ご苦労様」のところです。これを他の言葉で言い換えるとうなるでしょう。確かにこの言葉はお客様に使う言葉ではありませんね。それは、上から下の者へのねざらいの言葉だからです。「ご苦労様」ではなく、今おっしゃって頂いたように、使うなら「お疲れ様でした」です。この言葉はお客様であっても、上司であっても使えます。

はい、では二番を、少し長い会話ですが、よろしく願います。

～会話～

はい、この会話はいかがでしたか。

そうですね。この会話を最も感じの良い会話に替えていただけますか。自分なりに自信を持って言ってみましょう。お願いします。

まず、解答を確認したいと思います。「今日は」を「本日は」と直していただきました。これは、

とても丁寧だと思えます。「よろしかったでしょうか」これは、よく使われていますが、実はこの言葉は余りふさわしい言葉ではありません。では、どうすればいいのでしょうか。「よろしいでしょうか」ですね。レストランなどで例えば「本日のご注文はスパゲッティとサラダでよろしかったでしょうか」というような言い方を耳にした経験はあると思えますが、「よろしかったでしょうか」と過去形にする必要はありません。覚えておいてください。

それから「〳のお手続きをする形になります」は「〳のお手続きをすることになります」です。「すみませんが」をもう少し丁寧に言ってみるとどうでしょう。そう、お客様に対してですから「申し訳ありませんが」もしくは「申し訳ございませんが」と言う方がいいですね。

それと、「こちらにお名前の方を書いてください」これはどうでしょう。そうですね。よく「〳の方を」と、何にでもつける言い方が習慣化していますが、この「〳の方を」は必要ありませんね。「あと、〳の「あと」は「それから」に変えるといいですね。それから、「申し訳ありませんが身分証明書が必要なのですが、免許証や健康保健証はお持ちでしょうか」や「〳免許証をお持ちでしょ

うか」でもいいですね。また、「自分が」ではなく、「私が」となります。

また、「施設の案内をしますの

で、ついてきてください。」については、「施設についてご案内をいたしますので……」と言う風になります。また、「ついてきてください」ではなく、「こちらにどうぞ」とか、「こちらにお越し下さい」などの言葉に変えた方がいいと思います。

「よろしかったでしょうか」「〳する形になります」「〳の方」などと言う言葉ですが、これらは間違った言い回しですので、気をつけて下さい。

【ワンポイントマナーコーナー】

「電子メールのルール」について考えてみましょう。この文は直さなければならぬ所がありますので、一、二分取ります。皆さんが何処を直したらよいか考えてみてください。

「電子メール文」検討する

実際に企業の人事の方からよくお聞きすることですが、内定が決まり、その後の連絡等いろいろとやりとりをするような場合に、こちらからメールをしても全然返信が来ないとか、何日もたつてから返信が来る等という話を聞きます。

会社から来るメールは連絡を受け取るために来るので、返信しな

くてもいいかと思われがちですが、会社の方としては、相手がきちんと受け取ったかどうかを知りたいので、メールを受け取ったら、できれば二十四時間以内（できるだけ気が付いた時にすぐに）、即返信をする……。できるだけ早く返すことが基本です。

また、皆さんが社会人になった時、メールによって何を書くかの判断は大切なことになってきます。メールというのはどこに送られてしまうかわからない危険性があるので、重要な事項は送らないことです。また、添付するファイルにセキュリティ上の配慮をし、パスワードをかけて送ることも必要です。緊急のものは、「こういうことを緊急に送りましたので、どうかご確認下さい」とメールの送信後すぐに電話することも必要です。

また、【CC】というのは、何人かに送る時に使います。

そろそろ時間が来ました。本日は形だけではなくて、心遣いや、人間力というものをマナーという形を使って表すことが魅力的な大人なのだということを中心にお話をさせていただきました。

以上で終わりますが、最後に、素晴らしいお話をさせて下さい。それは以前、私が同じ年代の友人三人で、ある居酒屋に行き楽し

んでいたときのことです。その時、ごぼうの唐揚げを注文しました。ゴボウの唐揚げは五本出て参りました。一本ずつ食べた後、残り二本のごぼうを三等分にしようとして、私の友人が奮闘したものの、お箸では切れず、その友人は咄嗟にスタッフを呼びました。そして、「ちよつとすみませんが、このゴボウお箸で切れないので、三つに切り分けてくれませんか」と、言ったのです。一瞬私は「こんなことを言うから、『おばさん』だと言われるのだ」と気恥ずかしい思いでした。しかし、スタッフの方は「はい、かしこまりました。」と、穏やかな表情で、サツと持っていくて下さいました。それから私達は話を弾ませていたところ、暫くして、そのスタッフの女性が新しいお料理を持ってきてくれました。素敵なお料理でした。よく見ると、なんと、蘭の花などのデコレーションで周りを囲んだ「三等分された先ほどのゴボウの唐揚げ」だったので。それを見て、本当に私達は感激しました。それを持ってきてくださったスタッフの方、そして厨房の方の素晴らしい心遣いに感動しました。

このように、一寸した工夫で、相手がどのように感動するか、ちよつとした気遣いがどのように伝わっていくか、それを皆さんにお

伝えたくて、ごぼうのお話をさせていただきました。

はい、では皆さん時間が来ました。長い間ご静聴いただきました。誠にありがとうございます。皆さんが益々素敵な男性、素敵な女性になれることを陰ながら祈りしております。どうも皆様ありがとうございました。



学生グループが道後聖母幼稚園で
藍の栽培と栽培した藍の葉を使った叩き染めを行いました。
【10月9日】

学内最近のニュース

平成25年10月9日（水）、教育学部の学生グループが道後聖母幼稚園で藍の栽培と栽培した藍の葉を使った叩き染めを行いました。

本事業は、本学が支援する教育改革促進事業（愛媛大学GP）で、今年度採択されたものです。プロジェクト名は「伝統の継承プログラムを通じたグローバルマインドの育成」で、忘れられようとしている地域の伝統を復権する作業を通して、自らの来歴を知り、伝統に立脚した人格を育成して、世界に通じるグローバルマインドを持つ人材を育成することを目的としています。

愛媛県の伝統の織物に「伊予絣」があります。伊予絣は、藍染めを用いた織物で、明治36年には絣の全国生産量1位になり、愛媛県は伊予絣を通じて全国に知られていました。しかし現在、愛媛県を含む四国で藍染めは衰退しており、藍染めを知らない子どもたちが増えています。

そこで、本事業では、伝統の継承プログラムを通じて、地域の一員として自覚と誇りを持って行動し、目的達成のために多様な人と協働する、グローバルマインドをもった次世代を担うリーダーとなる人材を育成することを計画しました。

総合人間形成過程生活環境コース3回生の宮さゆりさんを中心としたグループが私立道後聖母幼稚園と協働しながら、5月から園庭にて種から藍を栽培しました。園児たちは、育っていく藍を継続観察して、葉の生長や藍の花の美しさを学びました。

そして、藍の染料としての性質を知るために、栽培した藍の葉を使って、年長組約60人を対象に叩き染めを行いました。園児達は、藍の葉を切り取ってウサギの顔を作ったり、葉で花火を作ったり、葉の並べ方にも工夫しながら思い思いの模様を描きました。葉をハンカチの上に並べた後は、一生懸命木槌で叩いて、ハンカチに模様を写し取りました。完成した作品に園児達も大喜びでした。

本事業を通じて、学生達は地域の一員として自覚と誇りを得、また目的達成のために園の先生方や他大学の学生とも協働しながら、藍の栽培と叩き染めを行いました。

また、幼稚園では海外の方と触れ合い、グローバル化やグローバルマインドについて大きな知見を得ることができました。

本事業は、11月22日（金）に、再び道後聖母幼稚園で、藍染めした布の「抜き染め」を行う予定です。



藍の葉をちぎってハンカチの上に並べます



完成品です！ 花火に見えるかな

教育学部共催事業「平成25年度いじめSTOP愛顔の子ども会議」を、東・中・南予で開催しました。

平成25年8月20日（火）～8月22日（木）、東予、中予、南予地区の三会場で、愛媛県教育委員会主催、教育学部共催の連携事業「平成25年度いじめSTOP愛顔の子ども会議」を開催し、地域の中学生約250人が参加しました。

この会議は、教育学部の地域の教育課題への取組を進める連携事業の一環として実施されたものです。参加した生徒一人ひとりがいじめ問題にしっかりと向き合い、深く考え、自らの意識を見つめ直すとともに、意見交換や演習を通して、いじめ撲滅の中心的なリーダーとしての自覚を高め、自校でのいじめ問題の解決に向けた取組の推進に貢献することを目的としています。さらに、この会議を広く県民に周知することで、社会総がかりで子どもの人権を守る気運の醸成を図ります。

それぞれの会場では、生徒代表によるいじめ防止の取組に関する実践発表とシンポジウムが行われました。シンポジウムでは、いじめを発見できる人、いじめを解決できる人をテーマに、会場の参加者と一緒に議論を行いました。

その後、教育学部の太田佳光副学部長の指導で、ワークショップとディスカッションが行われ、エンカウンター（カウンセリングの一形態）による仲間づくりと、いじめ防止のための話し合いがされました。中学生たちは、毎日の生活で感じたり考えたりしていることを出し合い、和気あいあいと、かつ真剣に話し合いをしました。なお、この取組には、教育学部と医学部看護学科の学生もボランティアで参加し、生徒たちとの交流を深めました。

次年度は、小学生を対象に開催される予定です。



シンポジウム



ワークショップ

《科学イノベーション挑戦講座》 「人類の役に立つ薬の合成に挑戦する」を開催しました。【10月19日】

平成25年10月19日（土）、教育学部2号館2階理科学学生共同実験室3で、《科学イノベーション挑戦講座》第4回講座「人類の役に立つ薬の合成に挑戦する」を開講しました。

本事業は、科学技術振興機構次世代科学者育成プログラムメニューB採択事業であり、中学生を対象とした、次世代を担う科学者を養成するものです。今回は教育学部理科教育専修の大橋准教授が、「人類の役に立つ薬の合成に挑戦する」の講義を行いました。

科学の発展が人類に与えた影響はたくさんありますが、薬の合成ほど人類のQOL（クオリティーオブライフ、生活の質）に大きな影響を与えたものはないでしょう。人類の平均寿命が70歳代まで飛躍的に向上したのは、薬によって多くの命が救われるようになったからです。本講義では、これらの薬のうち、もっともたくさん売られた鎮痛剤である、アスピリンの合成を行いました。

アスピリンはサリチル酸から簡単に合成できます。化学式としても、サリチル酸の水酸基をアセチル基で保護するだけです。

しかし、目に見えない分子の構造は、ほんとうにこのように変化しているのでしょうか。科学者は分子構造を見れば分子の性質を予言できるのはなぜでしょうか。講義では、分子の構造について理解を深めるために、分子模型を用いて、図ではそっくりなベンゼンとシクロヘキサンの違いを体感しました。そして、分子模型を用いてペットボトルの原料であるポリエチレンテレフタレートを製作し、分子構造と性質について考えました。

目に見えない分子構造を『想像の力』で補うことができたとき、私たちのこの世界がまったく違って見えることを受講生は、分子模型の制作や合成を通して感じ取ることができました。

次回の科学イノベーション挑戦講座は、11月9～10日に東京で開催される「全国受講生研究発表会」に参加する形で開催されます。なお、受講生5人がポスター発表「環境と生命の関連性に挑戦する」と「DNAの抽出に挑戦する」の2件を行います。それ以後は、12月14日、1月5日、1月11日の予定です。

★科学イノベーション挑戦講座のサイトができましたので、是非ご覧ください。〈<http://ehime-u-sciencecourse.jp/>〉



受講生全員で製作した
ポリエチレンテレフタレートの分子模型



再結晶の様子
(氷水で結晶が出てくる様子を観察中)

職場だより



夢の始まり



東温市
北吉井小教諭
松澤 愛
(平二五卒)

四月、新品のスーツを着て迎えた始業式。私の目の前には、二十五人の子どもたちがちよつぱり緊張した面持ちで座っていた。休み時間になると、何人かの子どもたちがわつと寄ってきて、口々に質問を浴びせてきた。

「これからこの子たちの先生になるのか。」放課後のしんと静まり返った教室でそんな思いを抱きながら、不思議な気持ちで誰も座っていない机と机を眺めていた。

あれから半年、今ではすっかり子どもたちから「先生」と呼ばれることに慣れてしまった。当初は呼ばれることに憧れすら抱いていたが、今では毎日先生、先生、と言われすぎて、もう呼ばないでくれ……と思う時さえある。家族と話しているとき、思わず一人称を

「先生」にして話しそうになった時は、軽くショックを受けた。

この半年は毎日が新しいことばかりで、ずっと右往左往していたように感じる。四月初めの職員会で、資料の膨大さに唖然となった。いったい何を覚えておかなければならないのかも分からない。

自分の役割をほとんど理解しないまま一学期を迎えてしまった。自分は何が分かっているのかが分かっていないので、情報不足のまま動き、失敗することもたびたびあった。また、社会人としてのマナー等も知識が足りず、お茶の出し方から周りの先生に聞くような状態であった。先輩の先生方がテキパキと動かれている時に、何をしたらいいか分からず呆然として

いることもしばしばあり、自分は驚くほど気が使えないことにも気付かされた。そんな事態に直面して指導をいただく度に、自分の無力さに落胆し、一人になるとふつと涙がこぼれることもあった。

そんなふうに落ち込んだ時も、次の日にはまた笑顔で学校に来るのは、職場の先生方の温かな支

援と、クラスの子どもたちの笑顔があるからだと感じている。

北吉井小の職員室は冗談や笑い声がよく飛び交っている。大変なことがあっても一緒に頑張りましょう、という気持ちが強く、みんなのでやり遂げようという雰囲気がある。だから私も、先輩の先生方に気兼ねなく相談ができるし、安心して毎日を過ごすことができるのである。また、「早く帰れよ。」という言葉や「こうすればいい」という指導など、普段の生活の中で何気なく向けられる言葉や行動に、私は温かさを感じる。他人と比較して落ち込んでいる時には、「愛先生は愛先生らしくやっつけていけばいいのよ。」と何人の方が声をかけて下さった。まるで父や母のように私を見守って下さるおかげで、私は今日も元気づく学校へと向かうことができ

るのだ。

クラスの子どもたちは、どんなに下手な授業をしても、「先生の授業は面白い。」と言ってくれる。重なる行事に頭がついて行かず、子どもたちにはたくさん迷惑をかけた。それでも笑顔で毎日「先生！」と寄ってきてくれる子どもたちが、可愛くて仕方がない。教員の言葉は子どもに大きな影響を

与えるというが、子どもの言葉は教員に大きな影響を与える、と最近思う。

ある時、私は風邪が長引き、体調を崩したまま出勤した。その日、帰り際に一人の女の子が声をかけてきた。

「先生、早く風邪治してね。私、先生が元気だと、嬉しいもん。」
今までこういった気遣いの言葉はたくさん聞いてきたが、これほど嬉しい気持ちにさせられることはなかった。しんどかった一日のことが全部吹っ飛んだ気分になると同時に、自分は子どもたちに支えられて、教員という仕事を続けられているのだなと思った。

厳しくも優しい先生方や、明るく元気な子どもたちに背中を押され、私は今も一步一步を進めている。感情的に怒ってしまったことを反省したり、仕事が遅くて慌てたりと、毎日毎日勉強になることばかりである。落ち込むこともまだまだあるが、「この一年は、自分は何ができないのかに気付く」という考え方に変えて、一つでも多くのことを吸収していきたい。そのために、研修や教材研究に積極的に取り組んでいきたいと考えている。

最近、子どもの質問で気になる



ものがあつた。授業で将来の夢は何かと子どもたちに聞いた時、一人の子どもが「先生の夢はなんですか。」と聞いてきた。私はドキツとした。今までは「先生になること」が夢であった。では、今先生である自分の夢はなんなのだろうか？と考えさせられた。具体的に達成できる目標ではなく、子どもが「プロ野球選手になりたい」というような大きな夢。子どもたちにも夢を尋ねるのであれば、自分にも誇りをもって言える夢が必要だと気付かされた。夢を語る子どもたちの目はキラキラしている。その輝きを伸ばすため、子どもたちと共に、私自身も夢探しをしていきたい。

791-0243 松山市平井町

一三六五一三

初心を忘れず



西予市
宇和町小教諭
武田 美和
(平一一卒)

ひそかに恐れていた原稿依頼がとうとう私にもきてしまいました。締切よりも随分と早い時期に依頼をいただいたにも拘わらず、ざりざりになってこの原稿を書いています。依頼をいただいてから、心の片隅で何を書こうかずっと考えていたのですが、書けることが何もなく手を付けることができませんでした。過去の同窓会報を読んでみると、皆さんがしんどうの思いを抱えながらも充実した毎日を送り、楽しみながら教員として成長されている様子がかがえ、正直、うらやましさと焦りを感じました。今の私は、しんどいことばかりにとらわれて、子どもとの関わりを楽しみながら仕事をすることができていないと感じたからです。

そもそも、私が教師になったのは、教育実習で子どもたちと関わることの楽しさやすばらしさを感じ

じたからでした。私は、小さいころ、教師という仕事にあまり興味をもっていなかったのですが、高校の先生に言われるがまま、何となく愛媛大学の教育学部に入學しました。三年生までは将来のこともろくに考えず、バイトにサークルにそれなりに楽しい大学生活を送っていました。そんな私の転職となったのが教育実習でした。最初は、教育実習も単位取得のために仕方なくという感じでした。希望した学年もいい加減で、ある程度話を通じて子どもらしい素直さもありそうな三年生でした。しかし、私が実際に配属されたのは六年生でした。実習生慣れして

いて、馬鹿にされたり反抗的な態度をとられたりしてしまうのではなにかと不安でいっぱい、自分の運の悪さをうらんだくらいでした。しかし、実際に実習が始まると、どの子も素直でかわいくて、大変ながらも充実した楽しい毎日をお過ごしことができました。また、先生方が子どもたちのことを心から思い情熱的に指導される姿に憧れも抱きました。そして、この時やっとな教師になりたいと思うようになりました。それから、教師を目指して勉強を始めました。

皆さんと比べて、随分と遅いスタートだったと思います。

その後、晴れて教員として採用され、当時の津島町立岩松小学校に勤めることになりました。初めて受け持ったのは二年生でした。不安でいっぱいなのに、子どもたちは初日から「先生、先生。」と話しかけてくれたり、分からないことを教えてくれたりして、不安が和らいだのを今でも覚えていました。私のつたない授業にいつも一生懸命に前向きに取り組んでくれました。なかなか九九を覚えられなかった子が全部の九九を覚ええました。時には、クラスみんなで大喜びしました。休み時間には、いっしょに鬼ごっこをして思い切り走った



り、おしゃべりをしたりしました。研究授業前で緊張している私を見て、「先生、大丈夫よ。頑張って。」と励ましてくれたこともありました。小学二年生に不安を見抜かれてしまうほど先生として不十分な私でしたが、たくさん悩みながらも子どもたちとともに本当に楽しい時間を過ごすことができました。そのころの自分を振り返ってみると、未熟ながらもいつもがむしゃらに子どもたちと向き合い、教員の仕事を楽しんでいました。

それに比べて今の私はどうでしょう。そのころよりも子どもたちにいるいろいろな力をつけたという思いは強くなっているものの、子どもたちとともに「楽しむ」ということを忘れてしまっているように思います。少し立ち止まって考えてみれば、楽しいことや充実感を味わえることはたくさんあるのですが、それすらも気付けなくなっていました。子どもたちに学力をつけたいと思うあまり、授業の中であれもしたいこれもしたいと欲張ってしまつて、子どもたちの実態を見つめることができなくなっていました。今のうちに子どもたちの欠点を改善したいと思う

あまり、注意ばかりしていました。そのため、イライラしてしまつて、心に余裕がなくなり、笑顔も少なくなっていました。子どもたちも、授業中に笑顔になる場面が少なくなっていました。子どもたちいろいろな力をつけたいという思いが空回りしてしまつていようです。子どもたちは、教師がほめるとやる気を出しても、すごい力を発揮したり、担任が笑っているとクラスの中が明るく和やかな雰囲気になったりするのは分かっていたはずなのに、忘れてしまつていました。情けないです。

最近、ある人に「肩に力が入りすぎるとよ。もっと、力を抜いたら。」と言われました。これは、仕事上で言われたことではなかったのですが、きっと子どもと接するときにも力が入りすぎているのだらうと思います。これからは、もっとゆつたりとしたおらかな気持ちで子どもと接し、初心を思い出して、自分自身も子どもたちとともに過ごす時間を「楽しむ」ことを心がけたいと思います。

☎ 797-0015

西予市宇和町卯之町
二丁目一四五番地

教師修行果てしなく



愛南町 久良小教諭 井上 武 (平八卒)

早いもので、愛媛大学大学院を修了し、十五年が経った。赴任した学校は、城辺小学校、西浦小学校、東海小学校、そして現任校の久良小学校である。

四十も過ぎると、そろそろベテランと呼ばれる領域に足を踏み入れる頃だが、満足のいく授業は、なかなかできない。しかし、教師は授業が本分。一時間(小学校なので正確には四十五分)で、子どもの向う的な変容を目指さなければならぬ。

本校は全校児童二十一名の小規模校である。その中で今年は六年生八名の担任を拝命した。六年生の担任になったら、どうしても本腰を入れて指導したい国語の教材があった。「やまなし」である。「やまなし」は宮沢賢治の作品で、私の調べた限りでは光村図書の教科書に、昭和四十六年から掲載されている。奇しくも私と同級生である。先行研究、先行実践も数多くあり、先輩諸氏もこの教材と格闘したことがよく分かる。格闘とは大げさな言い方のようにだが、そう表現したくなるほどの難教材であ

る。読後の子どもの感想は、「意味がよくわからない。」「クラムボンって何?」といったものであった。学級通信で保護者にも「ぜひ読んでみてください。」と呼び掛けたところ、PTA会長がさっそく読んでくださり、「先生、あの話さっぱり分からんで。」と感想をくださった。よく分からないものを分かるようにしていく営みこそ授業である。

まず、登場人物の確定をし、五月と十二月の対比を行った。対比というのは、二つのものを比較検討することである。物語には対比のテーマがよく出てくる。時代劇やアニメには、「正義」と「悪」という対比が出てくる。二つの対立するものを比較検討すること、物語のテーマがだいぶはつきりしてくる。子どもたちからは、「夏―秋」「日光―月光」とがっている―丸い―などが出てきた。多くの子どもたちが挙げたのは「かわせみ―やまなし」であった。これらの対比から更に上位の概念を導き出す。これらがいったい何を表しているのかを考えるのである。子どもたちからは、「強―弱」「恐怖―安らぎ」「生(死)―死(生)」などが出てきた。私としては「やまなし」という物語には、宮沢賢治の死生観がたつぷりと含まれていると考えている。この後は、「生―死」あるいは「死―生」というテーマを念頭において学習を進めた。

次に、この物語に出てくる「色」について考えた。この物語には「青白い水」「銀の色の腹をひるがえして」などとたくさん色が出てくる。その中で「黄金(きん)色」の表すものは何か検討した。この内容については省略する。そして最後に「やまなしは何を表しているか」と子どもたちに問うた。子どもたちからは、次のような意見が出た。「やまなしは死を表している。理由は、十二月を十一月と考えると、宮沢賢治の妹のとし子が死んだのも十一月だし、題名をやまなしにしたのは、何か大切なことを表している、と子どもの死と関係があるから。」「やまなしは死を表しています。理由は、やまなしは果物なので、トブーンと落ちた時点でもう死んでるので、物語では食べてないけど、二日後には多分食べられるのでやまなしは死を表しています。」「やまなしは生と死の両方を表しています。理由は、五月のかわせみのことで、魚みたいにかわい体験はしたくないと思ったので、それは死にたくないということと生きたいということの両方なので、生と死を表しています。」「やまなしは生と死を表している。理由は、やまなしが落ちてきたときに、かにの子どもらがこわいかわせみとまちがえたので死を表している。生は『さらさらつと黄金のぶちが光った』や『いいにおい』や『月光のじがもかもか集まった』が明る

い感じで生を表している。」「これらの意見からも分かるように、子どもたちは子どもたちなりにしっかりと読み取ろうとしている。もちろんもつともつと深いレベルの読み取りもあるだろうが、私の今の力では、これくらいが精一杯である。子どもの思考や発言は、教師の指導、教師の力に規定されるのである。また、お分りだろうが、指導法は多種多様であり、それは教師自身が選ぶものである。授業の進め方もその学級や子どもたちの実態に応じたものでなければならぬ。今回は、このような指導法で「やまなし」を進めた。手ごたえは、幾分かあったが、まだまだ自分の力のなさを感じた次第である。

さて、前述したように、教師は授業が本分である。教職を続ける限りは、教師には授業力向上が課せられている(と私は考えている)。本稿では、国語の実践を取り上げたが、小学校の教師はいろいろな教科を教えていかなければならない。教科指導ももちろんだが、生徒指導、学級経営などすることはたくさんある。他にも、特別支援教育、ICTを取り入れた教育、食育、キャリア教育、エネルギー環境教育など、挙げたらきりが無い。そのような意味で小学校の教師は、「スペシャリスト」より「ジェネラリスト」でありたいと思っている。簡単に言うると、「専門家」ではなく、「なんでも屋」ということである。しかしただのなんでも屋ではない。いろいろなことに精通しているなんでも屋である。そうなるためには、何が必要か。教えを請うしかないのである。力のある先輩に教えてもらうのである。研究授業や模擬授業を見ていただき、至らない点を指摘していただくのである。また、いろいろな職種の方に出会い、話をすることも大切な勉強である。それぞれの世界の最前線で活躍している人には、学ぶべきことがたくさんある。そのようにして、いろいろな分野から一級の情報を集め、自分の仕事へと生かしていくのである。



教師修行に果てはない。縁あって出会った子どもたちのために、教師としての力を、今日も高めていく。

〒798-4110 南宇和郡愛南町御荘 平城四一六一三

これまでを振り返って



喜多郡
内子小教諭
大田原秀樹
(平一〇卒)

楽しく自由な大学生活を送り、あつという間の四年間。採用試験を受けたものの、やはり不採用。しかし、幸いなことに講師として働かせていただくこととなった。

初めての勤務は、中学校だった。授業、部活動、生徒との関わりすべてが初めてであり、校長先生をはじめ、学年主任、そして多くの先生方に助けていただきながら日々を送った。特に、大変だったのがテスト問題の作成であった。内容はもちろん、どの程度の量を出せばいいのか全く分からず、理科主任の先生や他の理科教員に教えていただきながら何とか作成したのを覚えている。そしてできなかったのが試験日当日。今、考えと……。

また、部活動では、野球部の副顧問も経験することができた。自分自身、サッカーと柔道の経験し

がなく、野球は、小学生の頃、近所の友達と集まって遊んだ程度しかなかった。しかし、子どもたちと一緒に声を掛け合いながら体を動かすことは、とても気持ち良かった。その中で、授業中には見られない生徒の様子も見ることができた。そして、子どもたちと一つになって勝利することの喜びも経験させてもらった。

次に勤務したのは、小学校。一クラス四十人、三年生の学級担任だった。四十人いると大小様々なトラブルが日々起きていた。まわりの先生方からアドバイスをいただきながら、手探りで学級経営に取り組んだ。児童理解や家庭との連携など多くのことを学ぶことができた。

こうしてスタートした講師生活は、採用されるまでに中学校四校、小学校五校におよんだ。短期研修の先生の代わりや育児休暇の先生の代わりのため、一年間通して一つの学校に関われなかったのが残念であった。そのかわり、多くの児童や保護者、そして先生方と知り合うことができたことは、貴重な財産となっている。なんとか採用試験に合格し、懐

かしい校舎と恩師の笑顔に迎えられ、母校、内子小学校で新任生活がスタートした。最初に担任したのは三年生だった。第一印象は、良く言えば「元気がいっぱいの子どもたち」、言葉を換えれば「賑やかな子どもたち」であった。しかし、この元気のよさが、私の性格には合っていたようである。休み時間になると、「サッカーしよう。」「ドッジボールしよう。」と子どもの方から声をかけてくれた。まだ二十代だった私は、子どもたちに負けないくらい汗だくになって遊ぶことができた。

内子小での四年間で、体育主任、特活主任、学年主任、教育実習生の担当と多くのことを経験させていただいた。学年主任や教育実習生の担当など、今考えると校長先生も思いきったことをしたなと思うが……。しかし、講師の時にはあまり意識しなかった、「組織」を意識することができた。学級だけでなく、学年そして全校を動かすとき、自分が何をすべきか、少しでも意識するようになった。

縁があったのか、この児童たちとは、学級は変わったが五、六年と学級担任として関わり、卒業を

見届けることができた。そして、自分も新任地へ移動となった。次に赴任したのは、旧小田町にある参川小学校だった。一学年十名程度の小規模校であった。学校の近くには川が流れ、緑に囲まれた自然豊かな環境のせいも、子どもたちも笑顔あふれる心豊かな児童が多かった。四年間の勤務であったが、後半は、私の手術や治療のために児童や保護者、先生方に大変迷惑をかけてしまった。自宅療養していたとき、励ましのファックスを送ってくれた学級の子どもたちを今でも思い出す。そんな参川小学校も、来年度から小田小学校と統合されるため閉校となってしまう。本当に残念であるが、小田小学校でも心豊かな子どもに育ってほしい。

そして今、十二年目の教師生活、二度目の母校、内子小学校で過ごしている。本校に赴任してからは、理科専科という立場でいるいるな児童と関わらせて

る。これまで学んできたことを生かし、少しでも児童や先生方、地域の方々に貢献できるよう、更に成長していきたい。

☎ 791-3310 喜多郡内子町 城廻五二二



これまでと

これから



西条市

西条北中教諭

柳瀬 宏紀

(平二四卒)

平成二十四年三月に愛媛大学を卒業し、現在の職場である西条北中学校へ勤め始めて早一年半が経ちました。昨年度は二年生、今年度は一年生の学級担任を務めております。大学を卒業してすぐの赴任で、右も左もわからないまま始まった学校での教員生活。希望や夢に胸をふくらませ迎えた四月でしたが、一年目は反省と後悔ばかりの毎日でした。周りの先生方には知らないことやできないことを盾に甘えるばかりで、日々の学級経営や行事への取り組み方も至らない点ばかりでした。自分の中で大切にしなければならぬ軸がぶれてしまい、生徒たちに不信感を与えることもありました。新任だから許される、初めてだから仕方ないなどという事は一つもありません。

子どもたちからしたら、一生で一回しかない「中学二年生の担任」です。その事実だけは頭の中にずっと留めていました。しかし、留めていたからこそ日々自責の念に駆られるばかりでした。そんな私でも、修了式の放課後に生徒からサプライズで色紙を渡されました。それぞれの文字、それぞれの文体で綴られた三十二通りの感謝の言葉は、今でも時々眺めることがあります。

様々な経験を踏まえ迎えた二年目の春、私にとっての二回目の担任になる学年は、一年生でした。予想はしていたのですが、いざ春休みに準備を始めると焦ることはかりの毎日でした。ちなみに、私が一番最初に心配したことは、入学式の為の礼服の用意でした(形から入るタイプでしたので...)。無事に礼服が間に合い、初めて顔を合わせた四月の初め。彼らの期待と不安に満ちた表情を見て、逆にこちらが緊張しそうになりました。昨年は飛び入りで途中の学年に入ったのですが、今回は一から

たくさんのお話を教えていかなければなりません。しかし、そのことが私に学校の規則や慣習を見直すいい機会になりました。学年の生徒たちとは、半年前は良くも悪くもかつちりとした関係だったのですが、今では良くも悪くも多少の冗談を言い合える程になりました。しかし、彼らもまだ中学校生活の六分の一を終えたばかりです。そして、もう六分の一終えてしまったとも言えます。締めるべきところは締め、一日一日を無為にさせることの無いよう、生徒たちの「できなかったこと」を減らして、「できること」を増やしてあげたいと思います。

部活動では、男女バドミントンの副顧問を務めております。私自身、運動は好きなのですが、如何せん初めて経験する種目で、最初はルールブックや初心者用の教本を読むことからでした。現在の部員数は一・二年生を合わせて四十八名で、校内でもかなり人数の多い部です。しかし、平日は他の部との兼ね合いや近所の市営体



育館が他校の改築工事の関係で予約しづらい状況もあり、三コートしか使えません。二年生一人当たり割り当てられた時間はとても少なく、入部して半年の一年生は未だに体育館の外で素振りやせざるを得ない状態なのですが、そのような環境の中でもめげずにひたむきに頑張る生徒たちの姿を見て、私も真剣に向き合い、少しでも彼らにとっての糧になるような指導を心がけねばならないと実感しております。

この一年半で最も印象的だった

のは、放課後生徒間のトラブルについての指導をして帰したばかりの生徒が大きな声で言っていた「あんなに言われた。だから新任の担任はいややったんよ」の一言です。外で言っているのが校舎の中まで聞こえてきましたが、今でも耳に、心に深く刻まれています。しかし、「新任でも」これだけできるんだ、ということとは、もう二度と証明することはできません。教員生活はもう二年目になってしまいました。そして、これからも私の教員生活は過ぎていきます。私にできるのは、今この時を一生懸命頑張ること、その頑張りを生徒たちに還元してあげることだと思っています。学ぶことは尽きませんが、生徒と共に、成長し続けられるよう自己の研鑽に努めたいです。

☎ 791-0527 西条市丹原町関屋 甲三八六

夢への第一歩を 踏み出すために



松山市
北条北中教諭
西岡 香恵
(昭六二卒)

原稿依頼をいただいて驚いた。本校二十数名の教職員の中で愛大教育学部出身は何とたった三名なのだそうだ。しかも、支部長の校長先生にお聞きすると、「できれば新採の方」への依頼だったらしい。新採どころか「昭和最後の新採世代」の私でよいのかと悩みつつ、現在母校で息子がお世話になっているご縁もあるので、ペンを執らせていただくことにした。

私がこの四月から勤務しているのは、松山市の最北に位置する中学校である。生徒玄関から正面外を見やると、斎灘に浮かぶ鹿島が大きく見える。学校の遥か北には恵良山と腰折山、東には高縄山が見える。広い校区に海と山を擁する自然豊かな地である。ここ風早の地に住み始めて十一年。六年ぶり二度目の北条勤務、二年生の学年主任としての一年が始まった。

四月半ば、二年生一〇九名は鹿島に出かけた。新しい級友との出

会いを大切に、仲間同士のつながりを深めたいと考え計画した。当日は、家からおかずだけ持参し、学級ごとに炊いたご飯でおにぎりを作って持つて行くことにした。

いよいよ鹿島へ出発。実は、この日、近くの高校も一年生全員で鹿島へ。鹿島の人口が一気に四〇〇人強に増えたこの日、大にぎわいの中、地元の方に鹿島についてのお話をさせていただくこととなった。風も強く、声が聞き取りにくい状況ではあったが、講師の方の口元を注視しながら、じっと耳を傾ける彼らの表情が印象的であった。元来、地方祭や亥の子など、地域の行事を大切にする土地柄であり、地元の方に対する思いも格別なのだろうと感じた。

おにぎり弁当を食べた後は、レクリエーションのクラス対抗長縄大会。苦手な友達に声を掛け合い、練習の成果を出し切って頑張った。締めくくりは、学年全員で全力鬼ごっこ。広いキャンプ場いっぱいには散らばった鬼ごっこは、先生たちも巻き込んで、まさに全力勝負。「腕まくり」をした鬼から逃げ惑う生徒を、同じく腕まくりした先生が挟み撃ち。かと思いきや、息が上がってきた先生が鬼の生徒に追い詰められ……。

企画を任せたりーダーたちが、

同じ人が何度も鬼になったりしないように配慮するよう言ってくれていたけれど、先生たちへの配慮はないの？なんて、はーはー言いながらも、みんな笑顔、笑顔。

最後は「増え鬼」。鬼がだんだん増えていく恐怖の鬼ごっこ。最後の最後まで粘っていた若い先生も捕まえられ、全員が「腕まくり」となったところで試合終了。

けがなく、笑顔と共に全員無事帰校することができた。

余談であるが、この鹿島訪問中、うれしい出会いがあった。一緒に島を訪ねてきてくれたのだ。この三月まで勤務した学校の卒業生七名のうちの一人である。身長も半月会わないうちに、また一段と伸び、集団の中でもまれてたくましくなった笑顔を見せに来てくれた。

さて、実に無邪気に楽しい時を共に過ごしてから約半年。二年生は十月下旬、職場体験学習を行った。受け入れ先は我が校区を中心とした旧北条市内の三十五の事業所である。二年生の総合的な学習の時間のテーマは「風早に学ぶ」。自分の夢や将来の進路、生き方についてしっかり考え、具体的な「未来予想図」を描いていくべき「時」は、中学二年の「今」であるという話をして学習をスタートした。

二学期に入り、体験する職場の仕事内容について考える学習をしたときのことである。生徒たちが、毎日見ているはずの「先生の仕事」でさえ、「授業をする」「部活動の指導をする」以外になかなか思いつかないという事実を目の当たりにした。他の職業については推して知るべしである。「働くこと」が生徒たちの日常といかにかけ離れたものであるかということを感じ、教師自身がキャリア教育の必要性を再認識する体験となった。

十月に入り、職場体験学習を二週間後に控え、「働く人に学ぶ会」を行った。実際に働いている方ならではの様々なお話と共に、職場体験学習への助言もいただき、気持ち



持ちを高めることができた。

いよいよ職場体験学習直前という頃、日本列島は台風二十七号の影響で大荒れだった。前日に、教え子が訪ねてきてくれ、立派に「働く」姿を見せてくれたことは大変心強く感じられたが、ただ、彼らの職場体験学習は、確か台風で延期したのであったことを思い出し、タイミングの良さ(悪さ?)に少しひやりとした。雨の中、何とか実施できたのは幸いだった。

雨天のため、特に外での仕事を準備して下さっていた職場の方には大変ご迷惑をおかけしたと思う。生徒たちが働くことの大変さと充実感、やりがいの意味を実感して帰ることができたのは、ひとえに地域の方々の「ふるさと北条の子ども」に寄せる熱い思いのためのものであると感謝している。

生徒たちは、今、この貴重な体験を基に、社会に出て働くために必要な力、自分が伸ばしたい力について考える学習をしている。大切なのは、ここから。これらの学習が、生徒たちが夢への第一歩を踏み出すための大きな力となることを信じている。

799-2431 松山市北条

二〇一三(三)

「つながり」を活動テーマとした 久米わくわくチャレンジサタデー

教育学専修 四回生
大石 侑佳



私は三回生のときから愛媛大学フレンドシップ事業の「久米わくわくチャレンジサタデー（久米わくわくチャレ）」に参加しています。久米わくわくチャレとは久米小学校の五年生二十名、六年生二十名の計四十名の子どもたちを対象に行われている活動で、久米小学校の先生方、久米地区の公民館の方々や大学の先生方等の協力の下、毎月

一・二回土曜日の午前中に久米小学校で、開いています。たくさんの方々の支えや、先輩方の努力のおかげで、久米わくわくチャレは今年で九年目になります。活動内容は主に三つです。一つ目は「人間関係づくりを目的とした『ミニゲーム』」二つ目は「わくわくするよいうな『授業』」、三つ目は「思いきり体を動かして遊ぶことを目的とした『全体遊び』」です。いずれの活動も子どもたちが思いきり楽しめるように話し合いを重ね、学生が企画しています。また、いもほり遠足やクリスマスわくわくチャレなど季節に合った活動も企画しています。いもほり遠足は地域の方の畑を借りて、六月にさつまいものつるを植え、秋に子どもたちと一緒に収穫します。収穫したさつまいもはかまどで焼き、みんなでおいしくいただきます。自分たちで掘ったさつまいもを「おいしい〜。」と言いながら笑顔で頬張る子どもたちを見ると、また次も頑

張ろうと意欲が湧いてきます。クリスマスわくわくチャレでは、たまごの殻を利用して、自分ならではのたまごキャンドルを作製します。これらの活動は簡単にできるものではなく、準備のために時間もかかりますが、その分、大きな学びを得ることができ、私たちの成長に繋がっています。



今年度の久米わくわくチャレのテーマは「つながり」です。チャレンジを契機として、一人ひとりが「つながり」通して学び、成長することのできる活動にしよう。このテーマを設定しました。久米わくわくチャレという活動を通して子どもたちは、男女をとわず、同年・異学年だけのつながりではなく、学生、地域の方々、先生方とのつながりをもつことができ、つな

がりの中で喜びや楽しさを感じ、成長していつてほしいという私たちの願いがこもっています。そのテーマや子どもたちの意見をもとに、「わになるわくわくチャレ」という子どもたちに提示するわくわくチャレ目標も考えました。今見つかっている「わ」は「笑う」です。わくわくチャレで見つかる「わ」にはどんなものがあるかこれからも活動を通してみんなで見つけていきます。

また、久米わくわくチャレは私たち学生も「つながり」から学び、成長する場となっています。久米小学校の先生方は私たちのために、様々なことに参加させてくれるからです。例えば、六年生の卒業制作「はにわ作り」の補助や、五年生の「田植え」、「久米っ子育成プロジェクト」と称した子どもたちの学習の補助などが挙げられます。また、「わくわくキャンプ」という久米地区の小学生が百人以上集まる久米地区のイベントでもキャンプファイヤーの出し物をやらせてもらったり、「通学合宿」という公民館に寝泊まりし、学校に通うというイベントの補助をしたりするなど、地域の方々も子どもたちとかかわる色々なチャンスを与えてくれます。このようにたくさん

地域の一員となって子どもたちのために動くことは充実感に満ち溢れています。

久米わくわくチャレが他の愛媛大学フレンドシップ事業と異なっているところは、一年間を通して子どもたちの成長を見ることができるところだと思っています。教員を目指している私たちにとって、一年間を見通した学級づくりについて学ぶことのできる貴重な機会です。だからこそ責任を持って子どもたち一人ひとりに向き合い、みんなにとつて楽しいわくわくチャレをつくっていきたくと考えています。これからも、このような素晴らしい機会を与えて頂いていることに感謝し、「つながり」を大切にして久米わくわくチャレを継続し、充実発展させていきたいと思





川柳

日野 厚生

(昭三三卒)

退職後あれやこれやと始めたが、今残って続けているのは、川柳、民謡、ヨーガと無農薬での野菜作りです。生活の中で、ふと浮んでくる川柳を書きとめています。無理をせず、楽しみながら生きていきたいと思っています。

「山の畑」

恋人に会うように行く山の畑

(畑に行くと、ほかのことは忘れてしまいます。)

水ほしい苗のつばやき聞いてやる

(苗は出来るだけ買わず、自分で育て、人にもあげています。)

天地がえミミズびっくり踊りだす

(無農薬、無化学肥料、有機肥料なので、ミミズが住みついています。筋トレもかかっています。)

目がたより虫は手でとる無農薬

(昼間は保護色の虫、夜はヨト虫、ナメクジなど、昼間かくれていて夜食いあらず虫は懐中電灯でとっている。)

じょうろに水しんどいと言う一輪車

(坂道をねこ車にじょうろ三コに水を入れてはこぶ。今年の日照りには里いもや、しょうがをかちしてしまった。)

まず自分それから少おし人のため

(健康を保ち元気で、少しでも周囲に目がとどけばと思っっている。)

ゆとりある心が気づく思いやり

(自己中心の自分にはつとする時がある。出来るだけなおそうと思っっている。)

明日のため寢床に急ぐ午前二時

(夜は頭がさえ、時間を忘れてしまふことがある。)

通販のさそいに弱いたまた負ける

(荷物がつくと、又買ったのと妻におこられてばかり。)

台所時間とられる妻の留守

(妻は友人とよく旅行する。常備菜は作ってくれているが、味噌汁その他好きなものを作って食べている。)

うるさいが妻の小言に愛がある

(心配をしてくれるのは、ありがたく思っているが、聞き流している。)

よく動き楽しみながら百めざす

(母が九十九才で亡くなった。遺伝子を信じている。)

楽しんで楽しんでから行くあの世

(母が待っているあの世へは、この世を充分に楽しんでから、ゆつくり行く予定)

九条の署名に参加して安倍

(世界に誇る平和憲法は守らねばと思っっている。また戦争をしていける国にしようとしている安倍自民党政府の動きを心配している。)

年金の削減一揆してみたい

(年金が二・五%削減されるといふ。各種消費税増税、保険税も上り物価も上っている。生活が出来なくなるのではと心配だ。)

宇和島市吉田町立間 799-3730 二一三二二

俳句

癸巳年の句より



平野 青流

(範里) (昭二九卒)

寄稿を依頼されて、今年の四季の句の中から五句ずつを選び出してみました。教員を退職した時、当時、渋柿俳誌の全国主宰である大先輩の米田双葉子(兼光)先生に誘われて句道に入門しました。師について俳句を学んでから二十五年、学ばば学ぶ程難しさを感じ、俳句はことばの粹でなくてはならないと、しきりに思うこの頃です。力の続く限り生涯学習として続けていく覚悟で学んでいます。いまの目標は「青柿千句集」第二集を発刊することがねらいで頑張っています。

春

余生とて日々新たなり風光る

花の雲天守を回る鳶の笛

春泥に妹背負ふ兄渡りけり

片手椀僧の読経や涅槃西風

一番茶先の先のみ摘みにけり

夏

ふるさとは山紫水明五月来ぬ

渡り石沈む小川や男梅雨

梅雨憂しや籠りし部屋のパン重く

切痕の重き指なり梅雨曇

ひそやかに写経ひととき夕薄暑

秋

百幹の竹林の風秋立ちぬ

鈴虫や露天の湯浴み旅の果

後継の踊り唄なる初槽

特攻兵あがりも鎗ぬ生身魂

古語辞典座右に夜長や古句の味

冬

冬風に臈音遠のく浦曲かな

寄鍋に磯釣自慢果てもなく

なすべきもなき加齢かな年迎ふ

筆勢のかすれの工夫吉書かな

短パンの生徒力走四温かな

宇和島市笹町 798-0054 一三二二九

短歌

永遠の平和を



森貞 和雄
(昭二五卒)

「久しぶりーパイやろう」と酒好きの兄の墓石に新酒を供ふ

九州の地にも馴れしか単身の

息子の電話に熊本弁聴く

この選挙なにがなんでも死守せねば
憲法九条ゆらぎは始める

病院に裏口あるを初に知る

兄の遺体の運び出さるる

気丈なる兄でありしが独り居の

淋しさつづる日記現はる

気が抜けたラムネのやうな

吾が居てセピア色なる卒業写真

深夜便眠れぬ人もあまた居て

聞きいるらし吾もその人

如月を適期と聞きて鉄研ぎ

脚立に上り柿の枝切る

水墨画

豊かな時間

渡部 平人
(昭三五卒)

札幌の子より届きし新米で

赤飯を炊き子の誕生祝す

亡き母の筆筒たんすの底にみかけたり

セピア色した吾の通知票

精一杯けふを生きむと鏡見て

「よし」と声出す八十三歳

町内の八十路の人に配らるる

福祉の弁当この手に温し

新聞のお悔み欄にみかけたり

思ひを寄せし遠き君の名

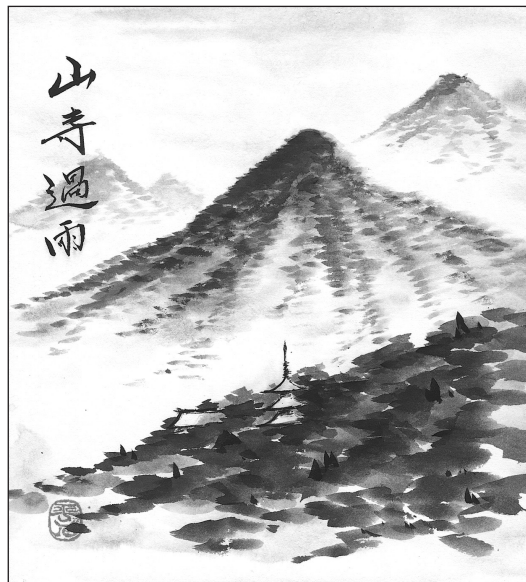
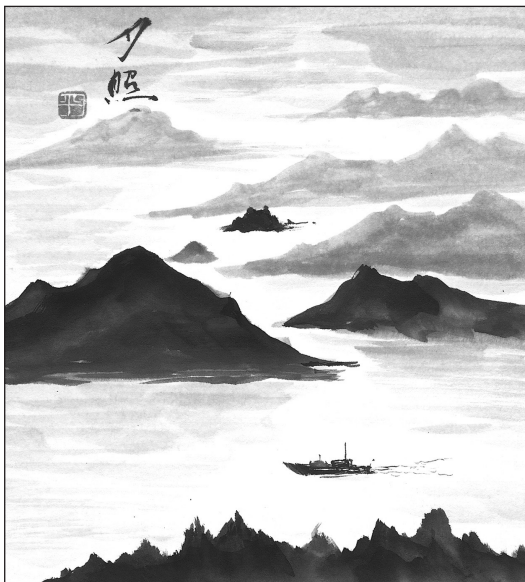
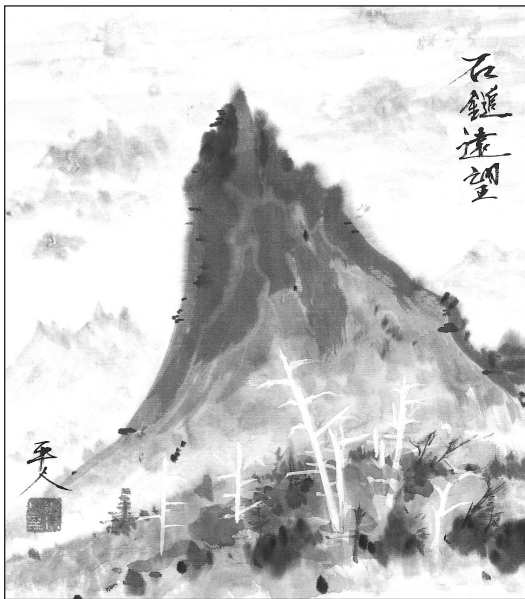
おだやかな吾が故郷の上空を

オスプレイ飛ぶ北の彼方へ

日本は神の国ぞと説く人に

また戦争かと心凍らす

☎ 791-0245 松山市南梅本
八八七二二



心にある風景を、自然への親しみを墨の濃淡で表現したいと願いつつ描いているとき、ふと時間を忘れることがある。ああ、いい時間が過ぎていたんだな、と思う。余分なものを省き、そのものの特性や本質を捉えて、シンプルに紙の上に形にしていこう。ものの形に捕われることなく、そのものらしさや感じを描くことが基本とされるが、それが難しい。そのものらしさを捉える感性を養うことが前提になる。子規は「草花を描く日課や秋に入る」と詠み、晩年の重篤のなかで絵を描くことに限らない喜びを見出した。時には「庭前の土くれ」を取って写し、「造化の秘密」が解かって来たという。山はこういう形に、との既成の

思い込みで描いていて、全く異なる構図で修正を受けると、頭の中の固定した観念が見事に碎かれる。古くなっていた自己がリフレッシュされ、心を洗われたように思うことがある。水墨画を学ぶ楽しみの一つである。

のこころを持ち続け、ゆったりとした時間のなかで、楽しみながら描くことができると願っている。

教育学部の安積京子講師がドイツでピアノコンサートに招待され、出演しました。【8月9日（火）】

教育学部音楽教育講座 安積京子講師がドイツでピアノコンサートに出演し、南ドイツ新聞 (Süddeutsche Zeitung、ドイツを代表する新聞のひとつで発行部数は44万部) から高く評価されました。

このコンサートは、ドイツ南部・バイエルン州・ミュンヘン郊外のゼーフェルド市にある有名な“ゼーフェルド城”にて開催されました。

主催は、安積講師が2007年から所属しているドイツのプロの演奏家が所属する音楽事務所「ミュンヘンピアニストクラブ」です。同クラブは1997年に設立され、現在約30人のヨーロッパで活躍するピアニストが所属し、約300人の会員がおり、ミュンヘンを中心に有名なコンサートホールやお城などで、年に約30回のコンサートを企画しています。

今回のコンサートのテーマは、「クラシック音楽とジャズの出会い」。このコンサートで、安積講師はショパンの作品を4曲演奏し、南ドイツ新聞の短評論で非常に高く評価されました。

学部トピックス

【以下、8月12日（月）の南ドイツ新聞の抜粋】

……ショパンの1834年から1846年までの作品がジャズの和声（ハーモニー）を知っていたはずがない、という点は誰も疑わない事だろう。しかしながら、安積京子が極めて洗練された繊細な形で聞かせてくれた音楽は、ショパンがスイング効果や半音の色彩豊かな和声への研ぎ澄まされたセンスを持っていた事を示した。安積は、《マズルカ》作品24の1と作品63の3の内容豊かに作り上げられ、しかも常に緊張感の満ちた形で制御されたルバートの演奏で、メランコリックな蛇行の流れと荘重な輝きの間に潜む、衝動的な力の即興的な性格を露にした。安積は、《バラード》作品47では魅力的な雰囲気語りを掘り下げていき、その後、情熱的で力に満ちた《ポロネーズ》作品53では理解しやすい内容展開に従いながら安積の精密さと明晰さがもう一度、明白に研ぎ澄まされた舞踊として表現された。……

ラインハート・パルマー筆（翻訳：出射映子、ドイツ公認翻訳者）



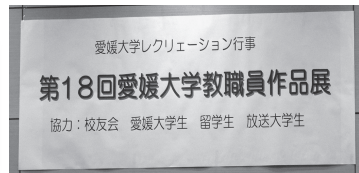
コンサートポスター



安積京子先生

第18回 愛媛大学教職員作品展が開催されました

～ 教育学部女性スタッフ陣制作「自由奔放流 七宝焼き」も出展 ～



平成8年（1996年）に開催されてから早くも今年で18回を迎え、出展数、内容ともに益々充実してきた「愛媛大学教職員作品展」が、今年度は11月14日から18日まで（17日は休み）愛媛大総合メディアセンターで一般公開されました。

多士済々の我が教育学部女性スタッフ陣、今回の出展に際して、共通作品をとの思いが一致し、女性スタッフ陣のパワー溢れる「七宝焼き」作品が出展されました。

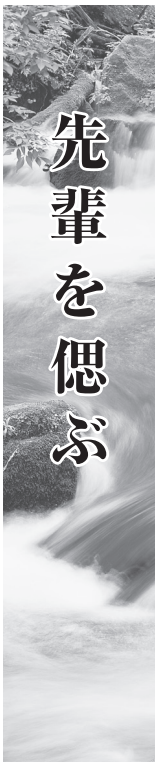
制作に当たっては、昼休みを有効利用し、ゆっくり、じっくり、計画的に時間をかけて制作していました。そこは、個性的で創造性溢れるスタッフの面々、聞くところによると、制作上の共通した心構えは、「自由奔放流」を旨とし、共に教え合い、助け合い、協働の心でもって楽しく明るく和気藹々で作品を創り上げていくことを心がけたそうです。

作品を創るに当たってのお気持ちをお聞きすると、そこには家族への思い、友人への思い、そして自分自身への思いを込め、愛情のこもった温かい作品を創りたいとの言葉が溢れていました。

だからでしょうか、作品は、個性的な形といい、色合いといい、実に変化に富んだ、ブローチ、ネックレス、ペンダント、セットになったカウスボタン・ネクタイピンと種類も豊富、見事な芸術作品に仕上がっていました。

また、作品展には、絵画や書道、華道、手芸、留学生が絵付けに挑戦した砥部焼など計105点が展示されていました。





先輩を偲ぶ

林傳次先生遺稿集

「把翠」を繙く(八)

「巻頭言」集

「愛媛教育」誌より

【教養の不足】

六月二十六日の夜、松山高等学校の講堂で開かれた世界的ヴァキオリニスト、ボリス・ラス氏の独奏会は近頃ない感激に満ちた会であった。生命でひいてゐるとしか思はれない氏の態度や、あの豪雨の際選ばれた聴衆のみであったからでもあるが、全音翳々として消えゆく楽の音を、それこそからだ中を耳にして追うてゐる時の静寂、やがて堂をゆるがす拍手、演奏者の顔に浮ぶかすかな微笑み、演奏者も聴衆も、凡てが同一のリズムで呼吸し鼓動してゐる様な会であった。

あるテノール歌手の独唱会の時であった。歌ひ手の声はまだ消え去らぬうち、慌しく拍手したものがあつた。見るとまだ二十才位の青年が、満身の力を込めて手を叩いてゐた。翳々(じょうじょう)として続くあるかなきかの声を追うて三昧の境地にはいつてゐる人の心が、あるひは会堂全体の空気が、其の為にどんなに擾(みだ)されたか知れない。苦々しげに其



の青年を見返つた人も幾人かあつた。「俺はこの曲を知つてゐるぞ、もうおしまひだ。早く手を叩かないか。」かういふ術学的の心持がその青年の鼻の先にはぶら下がつてゐた。

自分一人の第二義的第三義的の心持を不用意に暴露する所から、他人の心持を擾す事は、単にこればかりではない。色々な場合に遭遇する。もつと他人の心持を尊重する態度が欲しい。教養のある人となし人との相違、それはこんな場合にもあらはれる。
(大正十五年七月号)

【実行力の欠如】

「理屈を云はせると仲々達者だが、皆目働いてはくれない。」
「理想ばかり高くして一向役に立たぬ。」

近頃の学校卒業者に對する右の如き非難は聞飽きる程聞いた。従つて聞く者に何等の強き印象を与へる事もなく、多くは当然の事の様子に聞捨てにしてしまはれ勝である。が、多くの人から聞く非難であるだけに、充分に考覈してみ

なければならぬ。之等の非難は之を詮じ詰めると「実行力の欠如」といふ事に帰する。然らば果して我々の学校教育に実行力を消磨し欠乏させる様な欠陥が潜んでゐるのであるか。これは真剣に考へて見なければならぬ問題である。

第一に念頭に浮ぶのは、学科の内容を実生活との交渉の程度如何である。果して彼等学生の学修しつ、ある学科が、人生と切実なる關係を保つて教授せられてゐるや否やの問題である。人生の諸相を正しく理解し、正しく批判し、また適確に其に処するの道を教授せられつ、ありや否やの問題である。この点に對して四月四日例の学生社会科学研究会事件の公判廷に於ける「学校で真の学問を教へてくれぬから研究会に入ったのです。」といふ一学生の言は、多くの暗示を与へてくれるだろう。かういつたからとてあの学生の研究会入りは是認するのではないことはいふまでもない。

第二は実行力を錬磨する機會の少いことである。理科には実験が行はれ、技能科には実習が課せられてはゐるが、多くの学科に於いては、単に理解と記憶とを練習せしめるのみで、情意を陶冶し、実行力を鍛錬する様な考慮が果して払はれてゐるであらうか。「善」と信じ「是」と断ずる事の為に

は、右顧左眄躊躇逡巡(うこさべんちゅううちよしゆんじゆん)することなく、千万人と雖も、我往かんだの意気と信念とを確立せしめる様な考慮が果して払はれてゐるのであるか。

第三には学校に於ける操行査定標準である。暗記力の強い出来のよい生徒か、或は所謂おとなしい生徒、悪しういへば元氣のない女性的の者が、良好なる評点を与へられ、氣概もあり実行力もあるといふ様な、男性的な、積極的な者は、兎もすると不良の評点を与へられる様な傾きがありはしないだろうか。而も後者の如き生徒に對して、其の積極的方面をよき方面に導かんとは努力せずして、徒に之を抑圧し了せんとする傾きがありはしないだろうか。

以上は思ひついたま、を並べたに過ぎぬ。仔細に考察したならば多くの欠陥が——長年の学校生活の間何時とは知らず生徒の実行力を消磨し尽してしまふ様な欠陥が、潜んでゐはしないだろうか。こゝに問題を提示して世の教育者諸氏の省察をまつ。

(昭和二年五月号)

【氣力の涵養】

研究会等の席上透徹したる意見に聴者を感じせしめる人は多い。實際の教授に於いて巧みに知識を指導に授ける人もまた尠くない。然し意氣軒昂磅たる氣魄魄を有し、千万人と雖も我独り往かんだの教育者にいたりては寥々として暁天の星の如く稀である。

最近十数名の教員志望者に会

ふ。何れも高等教育を卒へたる人、其の人等の一分の隙もない服装、物慣れたる言語は誠に驚嘆すべきものであつたが、其の落着きのない態度、おどおどした目附は明かに氣力の不足を感じしめた。然し思へば之は彼等の罪ではない。幼い頃より入学難の聲に脅され、学校を卒へればまた就職難に苦しめられる。而も学校にて受けたる所のものは主として知識の注入のみ、其の根幹となるべき彼等の氣力を養ふために嘗て幾許の考慮が払はれたであらうか。

氣力のある者は興り、氣力の衰へたるものは減る。個人も団体も国も皆然りである。明治維新の大業を成したるは実にこの氣力ではないか。今の我国に最も必要なるは旺盛なる興国の意気である。而して我等は現代日本が余りに知育を偏重して氣力の涵養を閑却せることを最も遺憾に思う。

(昭和二年六月号)

祝・叙勲

(平成二十五年十一月三日)

☆瑞宝小綬賞

教育功勞 安永 健二 殿
松山市東方町甲七〇五一—
(昭和四十一年卒)

☆瑞宝双光賞

教育功勞 古川 一豊 殿
新居浜市壽町六一六
(昭和四十二年卒)

☆瑞宝双光賞

教育功勞 古川 一豊 殿
新居浜市壽町六一六
(昭和四十二年卒)



支部だより

岡山支部

第二回総会開かる

岡山支部長

岡田 潤

(昭三八卒)

平成二十五年八月二十五日(日)、会場は、二年前の第一回と同じ「サンビーチOKAYAMA」で、十一時から十二時過ぎまで総会。休憩をはさんで、十二時三十分ごろより懇親会を持ちました。今回の出席者は十六名。あいにく当日は「大雨警報」が出て、公共機関が一部不通となる中、県北からも駆けつけてくださいました。十六名中十五名は、初回と全く同じメンバーで、新たに参加していただいたのは、遠路、大阪の四条畷よりお越しの森川絃一様(昭三八卒)だけでした。藤田和則様(昭四六卒)は総会だけ、わざわざ都合を付けてご出席くださいました。お二人を初めご出席の皆様のお気持ち、非常にありがたく、改めて厚く御礼申し上げます。

御来賓として、教育学部長で同窓会顧問の三浦和尚先生と事務局常任幹事の菅田顕先生が御出席してくださいる予定でしたが、菅田顕先生は、残念ながらJRが不通の

ため御出席は適いませんでした。三浦先生はJRが不通のところ、急遽、バスにて駆けつけてくださいました。御多忙のところ、遠路、御臨席を賜り、少人数の「総会」に華を添えてくださいましたことに、ここから感謝・御礼を申し上げます。



総会の様子

総会は、十二時までという制限時間で、主に「会則(案)」を協議いたしました。この「会則(案)」は、去る三月九日、岡山市内幹事団で予備会議を持ち、総会の日時や「会則の骨子」を協議して、それを下地にしたものです。

「進行」「記録」を友信 正さん、議長に山本明朗さんを選出し、懸案と思われる岡山支部の組織化を計るため、新役員の選出と「役員」

や「事業」の「地区輪番制」の導入、「同窓会報」の配布などを議題に致しました。時間が足らず、「会則(案)」の承認は残念ながら得られず、「新役員」も選出されず、岡山支部の基礎的な組織化を計るという所期の目的も果たせませんでした。総会の時間的制約を考えて、総会の一週間前に「会則(案)」や「会計報告」等に参加者全員および関係者に郵送したのですが、それもあまり意味をなさなかつたようです。事前に予備会合を持って、岡山支部の「組織化」に対する「意識」を持つてもらい、「温度差」を縮めようと考えたのですが、幹事の皆さんの都合が付かず、このまま「総会」へ諮っても何とか了解は得られると判断した、私の見通しに甘さがあったと後悔しています。

懇親会では、まず三浦先生より、ご挨拶をいただきました。卒業生の進路が多岐にわたり、教育学部の存続の意義が問われていること。四国四県のなかで教育学部



2018.08.25

会の終了時、愛大唱歌を大合唱

を回して見てもらいましたところ、「この人も愛大卒か」という驚きの声が一、二、三上がりました。今後の岡山支部の発展を祈念して筆を擱きます。

の統廃合が行われ、生き残りを賭けての懸命な努力が続けられていることなど、母校の教育学部の置かれている厳しい現状が紹介されました。続いて近況報告や学生時代の思い出に話しは移り、「松山大好き」、「よき恩師に恵まれた」、「松山時代は今の人生の原点」と、皆さん母校、愛媛大学や松山を愛する思いを熱く語ってくださいました。船穂町の中桐淳美様(昭三九卒)から船穂特産のマスカットをいただきました。終わりに、大学唱歌を肩を組んで熱唱し、わずか十六人の会でしたが、二回目の総会を盛会の裡に終えることができました。

総会終了後、幹事数人で話し合いを持ち、十月十五日(火)に今後の岡山支部の運営、あり方について協議することになりました。まだまだ「同窓会報」が発行されていることも、同窓会費を払っていることさえも知らない方が多いというのが現状です。今回の総会の場で、私の手元の「会員名簿」



第2回総会集合写真

追伸、上記の十月十五日に有志八人ばかり、岡山市内で会合を持ち今後の岡山支部の運営、あり方などを協議いたしました。時間の大半は近況報告に終わり、大いに盛り上がり、会則(案)も検討いたしました。まずは会員相互の親睦が第一だということで、十二月七日(土)、忘年会を持つことになりました。第一回の総会出席者二十七名に十月下旬案内状を発送しております。

終わりにりましたが、第二回総会開催に当り、事務局より過分のお祝金をいただきました。会計上は大助かりで厚く御礼を申し上げます。十一月吉日、再拝頓首

715-0005

岡山県井原市門田町

一六二八

伊予支部 笑いは良薬 笑いで慶祝

伊予支部長

山田智香子

(昭五三卒)

支部長を引き受けるのは、上浮穴支部と今回で二度目になるが、助成についてはどういったものか知らずにいた。今年度、支部長を引き受けるに当たって前支部長より、この助成制度を活用して伊予教育会と連携し、落語家「古今亭菊志ん」師匠を招いて講演会を開くとの引継ぎを受けた。

伊予教育会の会員は、愛媛大学教育学部同窓生が多く、連携することによって、幅広い年齢層の教員とOBが交流することができると、伊予教育会は「伊予教育会研修会並びに慶祝会」を毎年



開催しており、慶祝される傘寿・米寿の方々にも喜んでいただけるのではないかと、う考えた。更には、東京から講師を招くには、事務手続きや経費の面でも大助かりである。

準備は、伊予教育会が中心となつて行い、順調に進んだ。会場の「ウエルピア伊予」は、全てが椅子席で高齢の方も楽に話を聞くことができる。傘寿・米寿の方には最前列に坐っていたいただき、講演会が始まる前には、約百五十人の会員が集まった。私は、毎年この会に参加しているが、研修会（講演会）に、こんなにも多くの傘寿や米寿の方が参加されていることはほとんどなかった。長時間の講演はお体もしんどいのだろうと



思っていたが、今回は、慶祝会に出席される方全員が、最初から研修会にも参加されていて、とても楽しみにされていることが伺えた。

「トテケテンテンテン……」軽快な太鼓の音とともに、古今

亭菊志ん師匠が登場、自己紹介からスタートした。生まれは広島県、昭和四十六年生まれの四十二歳。愛媛大学落語研究会に入ったところから落語に魅せられ、卒業後、東京の「古今亭円菊」師匠に入門して修行をしたとのこと。参加者は、本物の落語を生で聞くのが初めてだという人が多く、全員興味津々の表情である。そのことを知って、まずは、「落語」についての基礎知識の説明をしてくださった。落語は、一人で何人も登場人物を演じ分けることや、手拭いと扇子の道具の役割について、集中を途切れさせることなく、楽しく解説をしてくださった。さすがプロ！。現職の我々にこの話術があれば、さぞすばらしい授業ができるだろうと、ため息が出た。

演目その一は「五目講釈」。道楽の末、勘当になった葉屋の若旦那は居候の身。寝て食ってばかりいることを咎められ、講釈師として独演会



を開くが、そもそも素人。後半になると支離滅裂になつてしまう。「なんだいあれは。」葉屋の倅よ。「道理で、講釈がよく調合してある。」という話である。菊志ん師匠の軽妙な語り口と手振り身振りに引き込まれ、全員が師匠の姿や表情に釘付けだった。

質問タイムでは、「菊志ん師匠と同級生の者です。大学時代に、皮ジャンを着て歩いてるところをよく見かけました。」の発言に、参加者は大笑いだった。また覚え方についての質問には、「何度も何度も読んだり聞いたりします。入門した頃は、三か月から四か月かかっていましたが、今では短い話は十五分から二十分で覚えます。」との答えに、客席からは「ホーッ！」の感嘆の声が上がった。

演目その二は「紙入れ」。お色直しをして登場。度胸の坐ったおかみさんと気の小さい若者新吉、そしてご亭主の三人のやり取りが絶妙な落語である。会員は、二十歳代から八十歳代まで幅広いが、どの年代の人も大笑いやクスクス笑いで、時間が経つのを忘れ、あつ

という間の一時間だった。菊志ん師匠は、その後の懇親会にも参加して交流を深めてくださった。傘寿のお祝いを受けた男性OBは、「よかった。おもしろかったなあ。普通は来てくれんが、よう呼んでくれた。」と大好評だった。また、「おかみさんの登場の時には、本当にそこに女の人がおるみたいやったなあ。」など、懇親会の席でも落語の話で持ち切りだった。

今回、伊予教育会と愛媛大学教育学部同窓会が連携をしたことで、研修会の内容を充実させることができた。また、傘寿・米寿の方をはじめ参加者全員を笑いに引き込み、本当に楽しい時間を過ごすことができた。笑いは良薬というが、まさにその通りである。会場を出るときに、「来年もぜひ研修会は落語がええな。」の声をたくさん聞くことができた。

平成25年度伊予教



同期会



第三十回同期会

一九の会報告

小野植元幸

(昭二九卒)



毎年六月中旬開催と決めており、本年も六月八日(土)伊予鉄会館にて開催。第三十回は、同期会としては記録ではないかと思う。現職時から、長年京口和雄兄が努力して継続していたが、五十代の頃は学校の核として多忙のため中断。

現職時には東、中、南予の持ちまわりであったが、退職後復活。平成十年道後プリンスホテル六十六名。

その時

(一)毎年八月第三日曜日

(二)会場 松山市

(三)会場は、世話人一任。

十一年四十八名。十二年六十二名。それから毎年四十名前後で推移。八月の決定も、二年ごとの愛大教育学部同窓会と重なるため、六月中旬に変更。

二年ほど前、二十五名に減少したので世話人より「解散」の声があったが、参加者は猛反対。「続

けよう。」の合い言葉で続けることになった。長年の世話人京口和雄兄より森慎一郎・作道昌宏兄と受けつぎ、現、大野睦郎(久万町)兄となった。

当日は、受付時刻より三十分もはやく会場に着いている者が多かった。杖ついたり、通院している人等。笑顔、笑顔で握手したり、肩をたたきながら喜び合い、話の弾むこと。

記念撮影になると「ワイワイ」騒ぎ賑やか。

定刻十二時開会。他界した同期生に黙祷。その後、京口和雄兄が現職時より「ロシア人墓地」の保存に努力した様子を自費出版「もてなしの心を紡ぐ」。愛媛出版奨励賞を祝い、はじめから盛り上がった。各自二分の近況報告。家庭、健康、趣味、介護のこと等情報交換。六十年前の学生時代にタイムスリップ、「○○ちゃん。○君」と言い、方言まるだし。

酒の好きな男もドクターストップで、お茶で食べ、話の御馳走の者が多かった。

学生時代は、戦後七年目、衣食住は質素な学園生活だった。日本復興の行事としてはじまった昭和二十八年・第八回国民体育大会があり、愛媛が中心・四国三県との共催。堀之内で、天皇・皇后両陛下の開会式は、印象に残っている。十月に一週間、役員不足のため大学生はボランティアで、通信記録員としてよい思い出である。

愛媛国体が決定したので、元気でテレビ視聴したいものだと思いにしている。

二時間余りがあったという間に終わった。

最終章に入った時、学生時代の流行歌をカラオケ教室の先生、松浪不二男兄の指揮で「幸福のワルツ」「北国の春」「誰か故郷を想わさる」「青い山脈」文部省歌「ふるさと」を合唱。歌のしめとして、松浪不二男兄の作詞「一九の歌」を、千昌夫の曲で大合唱。

来る愛媛国体四年後を楽しみに、それまで「毎年参加しようや。」と言ひ、楽しい一ページ、至福の会だった。

国体の成功を願い、東京オリンピック二回目の幸せになるよう元気な生活を願ひながら散会。

791-3351 喜多郡内子町
五百木一五四



愛大29会 (30回) 同窓会 平成25年6月8日 於:伊予鉄会館

一九の歌

作詞 松浪不二男

一、松山 城山 城北に
青雲に そびえる 学舎が
ああ われらが 母校
若き生命の、うれしい出会い
あの校庭 木かげで 語った仲間
一九の 友は いつまでも

二、愛媛大学 一九会 いつまでも
永遠までも 楽しく 集い合う
ああ われらは ひとつ
みんなで 歩んだ 青春街道
今日も 仲よく スクラム組んで
一九の 青春は いつまでも
いつまでも
※曲は「北国の春」千昌夫氏

表紙作品について

「夜光」

作者 鳥谷ひかる

【作品サイズ】

30 cm × 30 cm × 50 cm (W × D × H)

【作品の概説】

この作品は、昨年(二〇二二年)の卒業制作展で展示したもので、「synaesthesia (シナジズム) 相乗効果」を全体のテーマに制作した作品の一つです。

制作では釉薬に着目し、既存の釉薬を使うのではなく元になる原料から六パターンの種類の釉薬をつくりました。そして、それに合う有機的なかたちを考案し、作品に仕上げました。

現在は愛媛県砥部町で砥部焼陶芸塾に通い焼き物を勉強しています。これまでは陶土をメインに制作を行っていましたが、砥部の磁土に触れて新たな表現方法や表現の在り方について学んでいます。

今後は地元での焼き物のみならず、それぞれの産地の焼き物についても積極的に学んでいきたいと考えています。

親子読書会の四十年

（昭王会
関東支部の集いから）

伊藤 始

（昭二〇卒）

平成二十五年五月三十一日、三十一回「昭王会東京支部」の集いがあった。場所はいつもの品川区立中小企業センター内の食堂「食彩・蔵」。出席者は後記六名。恒例の体験談のスピーチは私で、テーマは「親子読書会の四十年」。次にその概要を記す。

親子読書会とは、親と子どもが同じ児童書を読んで、感想などを話し合うことである。私はその司会役をしている。昭和四十八年、東京都の狛江第二中学校を皮切りに、現在も住まいの近くの公共図書館の集会所で続けている。なぜそんな活動を、校務以外にやってきたのか。まず、次の少女の述懐をさいてほしい。

夜遅く、トイレに行こうとして階下においてきた少女は、思わず立ちどまった。両親がけんかをしているのだ。だんだん声が大き

なってきたかと思うと、父が母にテーブルにあった箸を投げつけた。すると母はなにやらわめきながらヤカンを投げ返した。父が体をかわしたので、ヤカンは大きな音をたてて床に落ち、少女の足もとまでころがってきた。

少女は、危うく声をあげそうになったが、二階にかけあがり、ベツトにうつ伏して、おいおい泣いた。いつもやさしい母が、あんな乱暴なことをするなんて――。

彼女はそう言いながら、その場で泣きだした。隣にいた母親は、少女の肩を強く抱きしめ、「そうだったの、ごめんね、ごめんね」と言いながら、流れる涙をぬぐうともしなかった。

子どもの心に潜んでいた母親への疑念が、読書会という解放された場面で出てきたのだ。親と子の心が響き合った感動的な場面であった。

親子読書会の話し合いでは、そのほか友人のこと、学校の先生への不満、世の中の出来事など、本音で話してくれる。これは真剣に聞いてくれる大人への信頼感、何を言っても受けとめてくれるという安心感のためだろう。

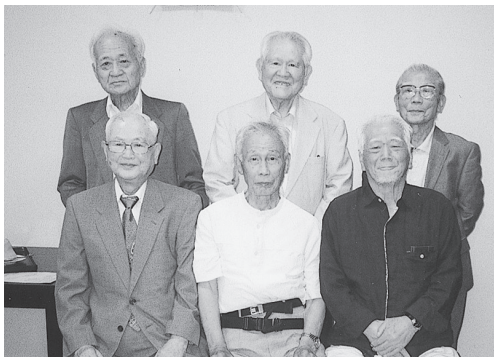
子どもは話し合いながら問題の出口を見つれたり、でなくても、

話すことでストレスが解消されていくようだ。大人も、新しい子どもを発見したり、大人の役割りについて考えさせられたりする。今こそ、子どもと大人の自由な語らいの場が求められているのではないか、と思う。

会員が高齢になったため、今年で昭王会の集いは終わりにしようということだったが、兼頭さんの強い要望により、来年も実施する方向で検討することになった。

【出席者】

（松山） 池川啓司、菊池巧
（関東） 兼頭吉市、首藤敏
永井恒男、伊藤始



放送大学四月入学生募集のお知らせ

放送大学では、平成二十六年四月入学生を募集中です。
（平成二十六年二月二十八日まで）

放送大学は、テレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では、心理学・福祉・文学など、幅広い分野を学べますが、**同窓会員**に現職の方々は、次に掲げる**教育関係の免許資格取得**などができます。

○ 放送大学の大学院を利用して、**専修免許状**の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、**特別支援学校教諭免許状**の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、**司書教諭資格**の取得が可能です。

○ 放送大学の講習を受講して、**教員免許更新**が可能です。

資料を無料でさし上げておきます。お気軽に、**愛媛学習センター**にご請求下さい。

放送大学

知識が人生を変えていく

一科目からでも学べます

平成26年度4月入学生募集中！
（平成26年2月28日まで）



愛媛学習センター
（愛媛大学内）

TEL 089-923-8544



村上護氏への追悼



阪急文化財団逸翁美術館館長
(大阪大学名誉教授・
前国文学研究資料館長)

伊井 春樹

(昭四三卒)

村上護君は私の生涯にとつてかけがえない存在であり、よきライバルとして励ましあい、相談相手でもあった。『放浪の俳人山頭火』(昭和四十七年)で鮮烈なデビューをすると、たちどころにベストセラーとなり、山頭火を近代俳人の不動の存在とした。作品が高等学校の教科書にまで採録されるにいたるのだから、その功績はかり知れない。

その後も倦むことなく、中原中也、坂口安吾、尾崎放哉等と、次々と新局面の評伝を書き続け、それまでの作家の伝記とは異なる新分野を開拓し、研究においては不可欠の文献として位置づけられる。後半期は俳句に没頭し、「愛

媛新聞」でも毎朝掲載されていた「季のうた」は二十年ばかりの継続、作家として、また俳句評論家としてその地位を占め、自らも句作し、亡くなる前年の十二月には句集『其中つれづれ』を出版するにいたる。

私と村上君とは、一学年下なのだが、同じ愛媛大学教育学部中等国語科の卒業生、文学の話し相手として親しくなり、生涯友情関係は変らなかつた。ともに作家をめざし、小説を書きもしていた。彼は地方の高校教師として赴任したものの、三年で切り上げて上京、初志貫徹の道を歩み続けた。私の方は早く断念して研究の道へと進み、互いに異なる分野ながら、頻繁に会って話もしていた。ともに東京での生活をするようになる前の九年間、電話でも話をしていたはずながら、ハガキや手紙をよく書いてもいた。私の手もとには九十通ばかり残されており、そこには小説の構想から執筆、生活のさまざまな綴られる。

二〇一〇年五月末に、私と村上

君との二人の講演を十一月二十三日にしてほしいとの依頼があった。大学の主催とし、同窓会の集まりも兼ねたいとのことで、その旨を村上君にも連絡し、ともに日程を調整することにした。私も多

忙をきわめ、東京とか各地に出かけることも多かつた。六月二十日に京都で講演をしている折、携帯の留守電に村上君からのメッセージが入っていた。後で知ったのだが、入院先からかけてきたようで、午後自宅に一度戻って来たところで話を聞く。高知に講演に行つた折、黄痘症状が出て、帰京後病院で精密検査をしたところ、膵臓癌と判明し、手術をするためしばらく体力をつけ、八月ころに切除してバイパスを通すことになるという。彼は淡々と私に伝えるものの、聞いていて思わず涙を催してしま

う。六月二十六日に村上君の奥さんに見舞いに行きたいと電話をする。と、急に手術の日程が早まり、今月下旬か来月初めになるため、その後のほうがよいとの返事だった。七月七日の夕方村上君から電話があり、六日前に十四時間もかかる手術をしたが、経過は順調だという。まだベッドから動けない

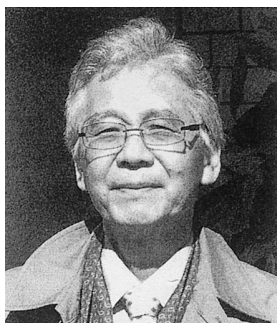
が、医者からも「命拾いをした」と言われたと、明るく元気な声であった。気になって、手術はどうでしたかと奥さんに聞くのそのためらわれていたため、張りのある声に私は安堵した。

七月二十七日に村上君から携帯に電話があり、手術後の経過を話してくれる。一時は体の各所に八本の管が矢のようにつきささっていたが、今は二本になったとか、ほどなく退院の話が出るはずで、原稿は書いているという。そのころ私が毎週担当していたNHKラジオ講座の放送も聞いていると、身辺の話もする。八月十日には、退院したとの連絡もあり、ともかく無事よかつたと思うばかりであった。

このようにして愛媛大学での、私と村上君との講演を、学長も参加して実施されるにいたる。私は「与謝野晶子の源氏物語礼賛歌」、村上君は「現代俳句について」で、その夜の懇親会では五十年前の人々とも再会し、旧交を温めるなど、楽しいひと時であった。村上君は病み上がりながら、最期までつきあってくれる。私とは松山市内と道後の宿を同じくし、久しぶりにかつてのように遅くまで話を

することができた。それがゆつくりと話をする最後になろうとは、互いに思いもしなかつた。

二〇一二年十二月十三日の夜、村上君の最後の著作となった句集のお札の電話を、しばらくぶりでもあったこともあり、長々としゃべっていた。すっかり日常生活にもどおり、地方にも出かけていると聞き、安心しきっていた。それが、翌年の六月二十九日に永眠したとの知らせを受け、私は慟哭するばかりで、呆然となつてしまふ。ただ、学生時代から抱いていた作家になりたいの夢を、ひたすら遂行して歩み続けた生涯だったのだと、友人として誇りに思っている。今にすれば、愛媛大学での講演は、体力をふりしぼつての最期のあいさつの思いがあつたのかと思ひもしてくる。



在りし日の村上護氏。享年71歳。

足 跡



曾我 定一
(昭二八年卒)

愛媛師範に入学し、新制大学四年で卒業した。第一回の卒業である。免許証は小学校一級・中英語一級である。昭和二十八年に卒業し宮浦小学校へ就職した。校長は何人もかわったが、私はいつも残されていた。十一年も過ぎてもたり研究授業などで苦労した。細かな教材研究も覚えた。研究会へも度々参加した。

それにも増して、やる気になったのは、或校長に出合った時だ。さびしい事を言いながら、校内研究の体制を固める。学校は一変した。校長の力に驚いた。

中学校への転出を希望して地元瀬戸崎中学校に帰った。今では教え子達も部落のリーダー格だ。けれども当時、私自身は英語に

関しては再出発である。早く私が習熟しないと迷惑がかかる。私は焦った。何年か経って、二か月のアメリカ研修に参加させて戴く。これがまた好運で、英語教育のあらゆる面で役立つのであった。

アメリカでは横断旅行、ホームステイ、大学での受講と英語ばかりの生活である。

中学校で使用していた三省堂のテキストに世界の国が出てくる。社の説明で、アメリカ人は晩年世界旅行する事が夢だから内容をそう組んだと……。

それなら私もと旅行を始めた。何回か旅するうちに、遠くから……と北欧十三日間に挑戦した。

夏至を中心に太陽の沈まない白夜をねらった。ロシア経由で鉄道を。ヘルシンキから豪華客船シリアラインにてロマンティックなバルト海クルーズである。翌朝北欧のベニスと呼ばれるストックホルムへ。ここではノーベル賞に関する市庁舎で受賞後演説する台もある。私もこの台でポーズをとり一枚。次はノルウェーで世界最大で、最深の大自然が迫るソグネフィヨルドで満喫した。今度はデ

ンマークのコペンハーゲンだ。人魚姫の像を見て、懐かしい日本食の昼食がこれ又大変おいしかった。

南米四か国(チリ・アルゼンチン・ブラジル・ペルー)十三日。最初チリのサンチャゴへ。ここでは世界に名高いチリワイン醸造所の見学と試飲後広大な葡萄畑を見る。そしてアンデス越えしてアルゼンチンの首都ブエノスアイレスへ。ここでは世界三大オペラ劇場の一つ、コロン劇場を横から見

る。幅一四四米あるという。席は七階まであって三、五〇〇人収容できるそうだ。またボカ地区にも足を運んだ。あのタンゴという曲の発祥地である。カミニートが数一〇〇米続くこの地域は、貧しくトタンの壁や屋根の家が多かった。ブエノスアイレスではタンゴのデイナーショーを。これはすばらしいの一言。他に言うことなし。

イグアスでは二七五個もの滝の上を歩いて三キロでブラジルに出る。ここには世界三大美港の一つリオデジャネイロがある。山の上に行くとこれまた素晴らしい景色である。

ペルーの首都に着くと空路インカ帝国の首都だった街クスコへ。標高三、三〇〇米もあるので一泊して、体を順応させる。その後二、四〇〇米の地に築かれた空中都市遺跡マチュピチュを訪れるのである。ここではインカ歴代の皇帝のミイラが発掘された太陽の神殿



イグアスの滝 (通称悪魔の喉)



ノーベル賞 スピーチ台



後方マチュピチュ全景

黄金、銀で囲まれた神殿の数々から高貴な人々の暮らしが伺える。ここへはスペインも侵入して来なかった。なのに亡びた。なぜだろう? 謎は深まる。

(☎) 794-1404 今治市上浦町瀬戸)



今、教育に思うこと

戦時中の国語教育

「読み方・綴り方・書き方」



小野植元幸
(昭二九卒)

昭和二十一年度末までは、標題の三分野に別れて評価されていた。「読み方」の時間は(一)声の大きさ(二)句読点の間のおき方(三)発音やアクセント(四)はやさ等の指導を受けた。毎時間(一)自由朗読(二)指名読み(三)師範読みがあった。

全校朝会で、各学年代表が朝礼台に上り朗読。「綴り方」の時間は、テーマ出題・体験や経験・聞いた話は書きやすかったが、ない時は悪戦苦闘し「あずり方」の時間となった。時たま「自由テーマ」の時はほっとした。大部分の児童が苦手だった。

「書き方」の時間は(一)漢字の仮名つけ(二)平仮名を漢字に書く(三)漢字の意味(四)送り

仮名。

テレビ出演者や政治家、タレントなど、筆順がちがったり「釘折れ字」や「マンガ字」が多く、下手な人が多いように思う。

昭和二十二年教育改革により、三分野は国語科に包括され、国語の時間が少なくなった。

ワープロ、パソコン、インターネットの利用が多く書く機会が少なくなったせいでもある。

二〇一三年(平成二五年)二月二十一日(木)午後七時。民放「書き順決定戦」で、絶対間違える漢字十二選「尺・専・博・考・若・級・比・卵・進・防」等。毛筆での書き順があり、筆順はでたらめで、下手な字であった。小学時代の漢字が正しく書けず、基礎基本ができていないで、同時に「送り仮名」もあり小学生の問題なのにできないタレントもいた。

教育改革により、国語の時間が削減されたせいもある。

習字の時間は、毎週あり「書」は日本の心と、正しい姿勢、私語禁止、無心で集中して書くように指導を受けた。

習字の手法があり、臨書中心。

草紙帳があり、紙面がまっ黒になっても使い、戦時中のため紙不足のため新聞紙をも使った。習字の文字を空書し、筆順を徹底的に教わった。教師が、黒板に大筆で板書して、筆順、はらい、止め、打ちこみ、文字の形まで指導があった。

「永」字八法は、文字を上手に書く基本であるとも教わった。用具の置き方、姿勢、態度等注意して書けば、形の整った美しい文字が書けるので「静と動」の心を持ち精神統一を保ち書いた。歴史上の武士、学者の書簡、手紙、掛軸、屏風等、個性があり三輪田米山の書はすばらしく何度見てもあきないすばらしい作品である。

昭和二十八、九年度、故浅海蘇山先生より、米山の書について講義を受けた。直接指導を受け、現職時での習字指導に大変役立ち感謝したものである。

管理職について、筆を持つ機会がふえて、町の書道塾に通って練習された先生もおられた。商売人でも筆を持つ機会が多い方も同じように練習され人もいた。

昔の武士の秀れた作品、県展、地方の書道展や三輪田米山の書等関心を持ち観賞を勧めたい。

(☎) 791-3351 喜多郡内子町五百木 一五四

教育現場等から同窓会へ 支援要請依頼について

教育現場等で、同窓会へ支援のご要望がありましたら、左記のような内容で、同窓会へご連絡下さい。

1. 支援要請のねらい
 2. どのような事を
 3. 何時頃
 4. 何処で
 5. 誰が、どのような組織が
 6. どのような方法で実施する
- その為、同窓会からの支援を要請したい。

要請連絡は、左記の所にメールして頂くか、FAX又はお手紙でお送り下さい。

教育学部同窓会 インターネット 開設しています!

dosokai@ed.ehime-u.ac.jp

↑
メールアドレスは上記

お問い合わせ、会報への寄稿、住所、勤務先変更などの諸連絡にご利用ください。お待ちしております。

愛媛大学職員会館の 利用案内

一、申込み方法
(1) 宛先
〒790-8577

松山市文京町三
愛媛大学教育学部
同窓会事務局

TEL 089-929-9053
(内線9085)

(2) 方法
電話又は、はがき等文章でも可。但し、同大学内の「財務部財務企画課総務・照査チーム」作成の申込書(使用許可書)に必要事項を記入するため連絡方法を明記してください。

(3) 申込期間
余裕を持って申込みと確

実、少なくとも五日前までに

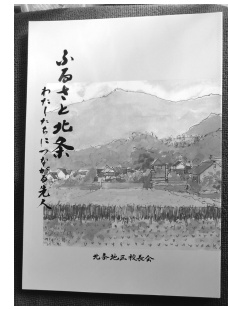
二、利用資格
大学の教職員及び同窓生

三、利用施設
○会議(大小四室)・会食
○宿泊(ツイン三室、シングル九室、和室八畳、十畳各一室)

四、食事・料理
料理、飲みもの共に可能

寄 贈 図 書

(平成二十五年八月)



「ふるさと北条」
わたしたちにつながる先人

寄贈者・編集

北条地区校長会

A5判 一一〇頁

発行者 北条地区校長会

平成二十五年五月十八日

※ 貸し出し可



「震災二年目の
三陸被災地を見る旅」

寄贈者・著者 西川 至

A5判 四五頁

発行者・出版 西川 至



絵画・俳句・

短歌・郷土の研究……

「教師 幸田 光温」

七十八年のあしあと

寄贈者・著者 幸田 美枝子

A5判 一四三頁

発行者・出版 幸田 美枝子

刊行にあたって



夫は、亡くなる数年前から俳句や短歌を作るようになって、時々、妻の私にも見せてくれました。結社に入ったり、句座に連なったりした訳ではありませんが、時にはNHKの短歌・俳句大会に応募したりして楽しんでおりました。

没後、何人かの方々のお奨めもあり、私自身の希望もあって、夫の短歌や俳句作品を集めて一冊に纏めようと思いついたのは六月間近のことでした。

初めは、作品を並べて、書き溜めてあったスケッチを何点か添える程度の簡単なものにする心算で

した。しかし、改めて作品を読んではいきますと、夫の生涯で遭遇したさまざまな人や場面への想いが感じられて、人生そのものと切り離して扱うことはできないと思っただけです。そこで、夫の七十八年間の人生を辿りながら、その間に短歌・俳句をちりばめていくかたちになりました。

いつも何かに挑戦し続ける人生でした。あるときは学校演劇の脚本作りに、また写真作品作りに、そして後半生を通じて民俗調査研究にと力を尽くしておりましたが、やはり、根幹は生徒さん達を愛する美術教師であり続けました。読書教育もその一つだったと思います。

最後まで卒業生の皆さんのこと

を気にかけて、交流が続けられたことを妻としても大切に思っております。

本書の刊行にあたって、多数の方々にご協力をお願いしました。短期間でのお願いにも拘わらず、夫々のお立場から、得がたいお言葉を頂く事ができました。これによって、夫の色々な姿を垣間見ていただけるのではないかと思います。皆さまのご協力に心から御礼申し上げます。

そして、夫の死去にあたりましては生前からご厚誼を賜った多数の皆さまから弔問に、あるいは真心のこもるお手紙にと、ご厚情をお寄せ頂きました。遺族といたしましてどんなに嬉しくまた心強く感じたことでしょうか。謹んで御礼申し上げます。

この本の制作に当たりましては、お二人のお力添えをいただきました。

助言をいただいた奥村吉風氏(川柳サロン「碧い風」主宰)、編集者の鈴木和満氏に感謝申し上げます。あれもこれもと沢山並べられた材料を、見事に切り分け、かつ、夫光温の温もりが伝わるように造り上げて下さいました。

平成二十五年十一月

幸田 美枝子

会報送料・寄付者名

●平成25・6〜12月

- 佐伯 カズミ
- 北田 久仁輝
- 花房 淳
- 森 君枝
- 山成 克昌
- 坂本 雅敏
- 飛鷹 純子
- 西原 進
- 大西 修一
- 曾我 定一
- 今村 美由紀



「第4回愛媛大学ホームカミングデイ」が開催されました

平成25年11月9日（土）、城北キャンパスで「第4回愛媛大学ホームカミングデイ」を開催し、卒業生、本学学生及び教職員あわせて約220人が参加しました。

ホームカミングデイは、卒業生の皆様や退職された教職員の方々と大学にお招きし、大学の教育・研究等の現状などを紹介するとともに、在学生や教職員との交流を行い、また大学の施設や学生祭を見学することで、母校へのご理解を深めていただくことを目的としています。

式典に先立ち、同時開催イベントとして、愛媛大学ミュージアムや樽味キャンパスにある植物工場の見学、本学職員の業務内容を紹介する「愛媛大学職員の仕事を知らう」を実施し、多くの方に参加いただきました。

その後、医学部OBで世田谷記念病院副院長の酒向正春さんによる「脳卒中からの人間回復」と題した特別講演があり、「攻めのリハビリ」や「ヘルシーロード街づくり計画」などの貴重なお話がありました。

また、大学院理工学研究科修士で校友会インドネシア支部立ち上げにご尽力いただいたSIGIT WIDODO（シギト ウィドド）さんによる挨拶、愛媛大学ダンスA Z.による元気いっぱいの演技披露が行われました。

その後、学生会館で行われた懇親会では、歌手のえひめ憲一さん（農学部OB）の演歌披露や、役者として活躍されている加藤富子さん（教育学部OG）の挨拶が行われました。

また、本学と連携協定を締結している愛南町から特産品をPRする屋台を出展いただき、新鮮な海鮮物が振る舞われたほか、特産の「クエ」「ブリ」「鯛」が当たる抽選会も催され、会場の盛り上げに一役買っていただきました。

今回も、県内外から多くの本学関係者が参加し、改めて交流を深めることができました。



柳澤康信学長挨拶



学歌斉唱（合唱団）



酒向正春さんによる特別講演



SIGIT WIDODO さんの挨拶



ダンスA Z. による演技披露